

波之鳥

第17号 1996



室蘭市医師親交会誌

波之鳥

第17号 1996

室蘭市医師親交会誌

目次

表紙 エビス島(ボンモシリ) 加藤治良
カット 齋藤美知子

随想

旅の終着駅は印度……………	米澤 堡……………	1
老医の昔ばなし……………	就 鳥 生……………	2
東・本庄両先生の想い出……………	黒光 康夫……………	5
中村秀先生との想い出……………	高島 信治……………	7

短歌・俳句

思ひ出すまま……………	曾根 清孝……………	10
折々に……………	児玉 直彦……………	12

座談会

科学は人間を豊かにしたか

松田幹人・斎藤光史・稲川 昭

国本孝夫・小玉俊典

編集委員（加藤・村井・上田・澤山・大久保・三村・斎藤）

事務局（高橋・小杉）

13

あんらくいす

マラウイ通信（娘からの手紙）その一……………大久保洋平

明日はユニニスカ、モロッコか……………上田 智夫

平成八年度MMMCドライブ会……………塩澤 英光

南国の樂園と日本守備隊玉砕の島サイパンへ……………鳴井 清一

サイパン紀行（親交会旅行）……………村井 么乙

全道ドクターズ参戦記……………三村 博通

編集室へのお便り

会員異動

親交会のおもな行事

編集後記

三村 博通

48

44

21

旅の終着駅は印度

米澤 堡

(米澤医院)

終着駅名を書いたから、始発駅から途中の駅名並びに旅の動機を書かなければ首尾一貫しません。昭和二十六年室蘭出身の小生が突然室蘭で産婦人科医院を開業し、門前閑古鳥が鳴く始末。当時新生初代室蘭市医師会々長は故齋藤義太郎先生で、医師会館もなく、総会や理事会も齋藤邸で開催されていました。小生は邸内の珍しい調度品に興味をそゝられ、散会後も残って、先生から色々と教えて頂きました。昭和三十五年の日本民芸協会東京全国大会参加を勧められ、生活も少し余裕が出来たのでご一緒させて頂きました。民芸とは民衆が普段使っている生活全般に亘る雑器にも美術品に劣らぬ平凡で健康な美しさが有るとの理論を確立した柳宗悦先生の外東西の工芸界の名匠に接し、小生は大感銘を受けました。大会終了後栃木県益子町の名陶芸作家浜田庄司先生宅に伺い、数々の蒐集品を解説されたのには、小生すっかり民芸が好きになりました。陶芸家の作業衣の甚平(もんぺ)姿にも惚れ帰蘭後早速藍木綿のもんぺ姿を真似しました。

その後、室蘭民芸協会員になり各地の全国大会に家内同伴で参加し、沖縄大会には旅券を取り、三百\$を購入し、コレ

ラ予防接種を受け渡航したものです。元来亥年生れで猪突猛進型の性格なものですから、大会参加以外に単独で新古民芸品の蒐集に夢中になり、特に京都の奥野と云う古民芸店主は私よりも二十四歳も若いが天性の目利きで、西の名陶芸家河井寛次郎先生に可愛がられた人物でした。河井先生は松下幸之助氏が文化勲章受賞者に推薦するから履歴書を書く様にと言われた時先生曰く、そんな物よりナショナルのポータブルラジオが良い。金銭や名には恬淡な方でした。その名陶芸家に可愛がられた奥野氏は私と一緒に四国に蒐集の旅に出る程の仲になりました。

一般に業者は仮令顧客でも同道して旅に出ないのが鉄則みたいなものですから、皆さんから驚きの目で見られたものです。惜しむらくは、彼はメキシコ旅行を最後に若くして胃癌で亡くなり残念至極です。日本国内での目星い物が少なくなり奥野氏の助言で李朝物を求めに案内者も紹介され、十年間に二十回渡韓しました。生来ズボラな性格ですので蒐集記録もなく、小生が集め役、家内が片付け役でした。大きな梱包がしばしば横浜税関に届くものですから骨董商かと思われ、電話で問い合わせがありました。私設の民芸館をつくる予定と返事し了解を得ました。実際に故長田廣先生が水戸に転出するという事で跡地購入の口約束をしていました。各地の私設民芸館を訪ね助言を求めたところ借金を残すだけの事で設立を断念しました。韓国に行つて秀吉の朝鮮征伐、初代朝鮮総督長官伊藤博文の悪業の数々を見て私は涙が出ました。日本の閣僚の中に正しい歴史観を持たず暴言を吐く連中が居るのには呆れて物が言えません。ただし、朝鮮を愛し朝鮮の民

老医の昔ばなし

就 鳥 生

其の一

芸を柳先生に知らせた人物が居ました。その人の名は浅川巧さんです。朝鮮の林野庁の技手として勤務し、朝鮮人と同じ白衣を着、朝鮮語もたくみでした。貧しい学生には学費を援助し、また早朝売り声をあげての行人商人から物を一銭で買上げ奥さんから隣の家では五厘で売っていたと小言を云われるとあの人達も貧しいのだから、それでいいのだとなだめたそうです。林野庁の同僚にも親切で皆から好かれていたそうです。転勤すれば技師に昇格するのに京城を愛し、同地で亡くなられました。清涼里の裏の小高い山が忘憂里と云う共同墓地です。其処に浅川さんが埋葬されています。墓地の入口に詰所があり遮断機が降りていますが、浅川さんの墓参りに来たと云うと、係員が丁寧に道順を教えてくださいました。墓地に入ると、遙か遠く迄ゆるやかな波形の小山が続き、その上に土饅頭の墓が埋め盡しています。浅川さんの墓には終戦後林野庁の皆さんが李朝の大壺型の顕彰碑が建てられています。さて文案を原稿用紙四枚分だけ二日間で清書しましたが、文筆家でもなく、八十五歳の高齢者である小生は疲れ果てました。後の分は年月を掛けて次回の波久鳥で完結したいと思えます。我が儘をお許し下さい。

向いの店の良ちゃんから電話があつて、今晚抄読会をやるので先生にも出席して貰いたいと言つて来た。私は余り興味が湧かなかつたが今夜は特に予定がないので行つて見る事にした。集まっていたのは街の店家の若い連中で、どう見ても文学などには縁のない者達である。第一、席には書物つ気など一切見えないのである。

「これから何をするのさ」

「毎月一回集まつて一杯やっている仲間の会さ」

「さっきの電話では抄読会と聞いたが」

「抄読会つて何の事だい。商人六人の会だから商六会さ」

それなら私は帰ると言つたが、まあくくと引つ張り込まれた。茶碗酒に鯛の煮干しを噛つて、ひと時を雑談で過ごし、お開きになつて私が立ち上がったら、良ちゃんが実は先生に頼みがあるので少し残つてくれと引き留められた。

良ちゃんの話は

「俺、嫁さん貰う事に決めたが両方の家にまだ話をしてないんで先生に進めてもらいたいです」
つまり仲人の依頼である。

次の日彼女を連れて来た。器量も良く、話をして見ると、仲々しっかりしている。すぐ良っちゃんの母親にもち掛けた処、先生が見てよければいゝよと実にあっけない承諾である。娘の家の方でも簡単に承知してくれた。只其の時父親が今更反対しても仕様がないだろうしな、とつぶやいたのが気に掛かっていた。

一ヶ月程して結婚式の段取りとなり、両家の親兄弟と商六会の連中が良っちゃんの家に集まり、私と家内の仲立ちで杯を上げ、そのあとすぐ披露宴と簡単に一切が終了した。

数日後の事であるが、商六会の照夫ちゃんから飛んでもない話を聞かされた。

「先生の奥さん何も知らないで、腹ぼっけの花嫁さんの手を引いていたさ」

私はそんな事聞いていなかったので怒りが込み上げて来た。すぐに呼び付けて詰問すると、

「実はそうだったのだが、それを言えば先生引き受けてくれないと思つたので……、両方の家にも知られて居たんです」

「どこでやつたんだ」

思わず私の言葉は下品になった。

「浜の磯舟の陰でさ」

「そんな処だったら砂めりこんで痛かつたらうに」

男の子が生れた。或る日子を連れて診察を受けに来たが、毛髪頭部の脂漏性湿疹が乾いて頭にへばり付き、所謂「がんべ」である。

「それ見る、あの時の砂が子供の頭にくっついて来たんだ。癒らないかも知れないぞ、親の責任だ」

やっと溜飲が下がった。悪い医者である。

其の二

寒い日が続いて、今日は雪も降って来た。馬ふん道路も雪で清らかに見える。筋向かいのほてい屋酒店の横小路に荷馬車が見えるのは又東の沢の仙人が来て居るようだ。少しばかりの大根や菜っ葉を作り街へ売りに来る農家である。顔やあごに白ひげを長くのばした面貌はまさに仙人である。馬は繋がれたまゝ、うなだれて失心したように何時間も待つて居るので背中雪が体温で解けて、腹帯からつらが下がって居るのが見える。

仙人はいつもほてい屋で焼酎を飲んでいて、時々店の表の床几に掛けて飲みながら通りがかりの人に大声で話しかけているのはもっぱら悪口である。浜の漁師の息子がつかまつた「おまえのおやぢ、ろくたものでないぞ、魚協に出す魚ごまかして売って歩いているべ、こないだ買った肴くさつていた。金返せと言つとけ」

田所のかみさんが通つた。

「このみつたくなし早く行け。べっ」

飲み疲れた頃馬車の荷台にひっくり返つて、馬はトボトボと一里半の道を帰つて行つた。

山で仙人が死んでいるから来て診てくれと徳さんから連絡が入つた。家から少し離れた放牧場の柵のそばで倒れてこと切れていた。検死を始めると後頭部から出血しているようだ。そしてなんと首筋に明らかな馬の歯型がくい込んだ痕がつい

ている。徳さんの話では仙人がまた街へ飲みに出ようと連れに行つたが、馬が又放つて置かれるのはまっぴらだと怒つて、首に噛み付き振り廻して柵にたたきつけたに違いないと言う。私はそうは思いたくなかつた。普段邪険な扱いを受けていても主人は主人だ。脳か心臓の発作で倒れたのを家まで運ぼうと首筋を咬えて引きづつたものと判断した。あの可哀想な馬に殺人の罪は負わせられない。検案書の直接死因は急性心不全と記した。

其の三

その年の夏の暑さは異常であつた。六月の長雨が嘘のように毎日カン／＼照りが続いて庭の草花もうなだれて元気がない。

あご髭を生やした民生委員の森田さんが訪ねて来た。

「山の乞食夫婦の家が火事になつたの知つてますか。私も今朝聞いたんだが、山奥だし小さな家なので消防も知らなかつたそうです。もう一昨日の事だとか」

西の沢を登りつめた熊の台の下で、開拓に入つた人が痩せ地に見切りをつけて街へ出たあとの空家に乞食が住みついた事は聞いていた。おんぼる姿で街へ出て少しのお金や食べ物を買ひ歩いて来た時よく見掛けていた。男は片腕が無く、女は唾らしい。

「今どうして居るの」

「それなのだが、焼け残つた納屋に入つて居るようだ」と東の沢の徳さんが知らせて来た。声を掛けたら中で返事をしてい

たが外へ出て来なかつたと言うので怪我でもしているのではないかと心配で、これから行つて見る処だが先生も一緒に貰えませんか」

森田さんは衣類の包み、私は往診鞆を持って自転車を出掛けた。道筋は雑草の中だが木立ちの陰が涼しくて気持ちがいい。少し登ると海が見えて来た。逆光に輝き美しい眺めである。

家は無残に焼け落ちていた。納屋の外から

「民生委員の森田だが、いるかい」

中でゴソ／＼やっていたが筵一枚かけた入口から女が出て来てピヨコンと頭を下げた。膚襦袢一枚に腰巻だけである。森田さんが親指を立てて居るかと思草をした。女が引込んで男が現れたがやはり腰巻一つで、しかも先程女房がしていた赤いやつである。暑いので裸で寝ていた処へ燃え出してその儘外へ飛び出したのだろう。

別にかからだの方に異常はないようだが、一昨日から何も食べていないと空腹を訴えていた。帰りに徳さんの家に寄つて食料を届けてくれと頼んで来た。

何日か経つて夫婦は又街へ物乞いに歩いて居るようだが、森田さんの背広のお古と奥さんの一寸派手なワンピース姿では以前のボロ／＼の時より大分み入りが少なくなつたようだと聞いている。

東・本庄両先生の思い出

黒光康夫

(黒光医院)

過日、澤山先生から東先生と本庄先生に就いて、何か書く様に依頼された。最近、頓に減退して来た記憶を辿り乍ら、頭に浮かぶ事を記し責を果し度い。

本庄先生とは、戦後間もなく、当時の富士鉄病院、現在の新日鐵病院に勤務する事になり、お付合いが始まりました。当時は戦後の物資不足・食糧難時代で、芋飯を食べ乍ら、懇切丁寧な指導を受け、診療に従事して居ました。その頃からインターン生が多数来る様になり、中心になって色々面倒を見て居られました。手術が終わり、夕方より、患者その他から差し入れのあった酒で医局で時々、インターン生を交えて、小宴会を催しました。その席で、我々始め、インターン生に日常の過し方、異性との交際等、厳しく意見されて種々のトラブルが起きぬ様配慮されて居られました。私にとっても先生の指針として多大の影響がありました。

先生は亦、剛直で直截な表現をされる一方、優しい心遣いをされる方で、交際も多方面に互り、頼まれ事は進んで引き受け、誠実にこなす方でもありました。

十年程前、電話があり、昔病院で一緒に勤務されていた清

水先生が皮膚癌で手足の一部を切断し、落ち込んで居るので、元気づけ度いとの事でした。札幌のホテルで会食する事になり、私の車でお連れする事にしましたが、その車中でご子息とスイス旅行に行かれ、アルプスを下山する際に途中の駅迄歩いて最終電車に漸く間に合われた事とか、ヨーロッパの各国の食事の事とか、ウイーン在住の日本の音楽家の事等、旅の思い出を楽しそうに話して居られた。やがて札幌に着き、清水先生と再会し、会食は十勝ワインの乾杯で始まり、終始和やかな雰囲気の中で話が弾み時間の経つのも忘れる程でした。名残りを惜しみ乍ら再会を約して別れましたが、その先生方も今は既に亡くなられ良き思い出になりました。

亦、先生の喜寿・傘寿と節目節目に飯島先生・澤山先生と相談しお祝いの宴を催しましたが、参会者の人数の多さに先生の多方面に互るご活躍とお人柄に依るものと感心致しました。その頃より足が弱くなられた様で、時々飯島・澤山先生等と中島町へ出た折、電話してお誘いし喜ばれて居りました。平成四年十二月と平成五年十月に長寿を祝う会を有志で行いましたが、その一年の間にめっきり元気が無くなられ、心密かに心配して居りました。其の後お会いする事なく、病臥されて居られるご様子を聴いて居りましたが、遂に計報に接しました。通夜の席で大事にされて居た写真が写されましたが、その両方に私の姿があり五十年の月日を偲び、耐えがたい淋しさを覚えました。

扱て東先生とは十五年程前、医師親交会の理事になり、総務担当となりましたが、前任の高橋先生が病没されて居り事

務の引継ぎが無く、何も解らぬまま仕事をする事になりました。当時副会長であられた先生は何かと私を引き立てられ、ご指導戴きました。その頃会員も漸増し、基金も増え、利子収入も多く会合や旅行等行事も盛大になって参りました。

懇親会や忘年会等の女性の件ではそれ迄経験の浅い私を連れ、一晩に十軒位中島町の店を訪れ女性を指名されて居りました。その交流の広さに吃驚致しました。それも会計は、自分持ちで今日は私が連れて来たのだからと云われました。軽妙洒脱で粹人とも云えるお人柄で、大変女性に人気のある方でした。

亦先生には、大岩・飯島先生等周囲の先生方とも相談し喜寿のお祝い、八十五歳になられてそれを節目に現役を引退された時「永年の医療活動を讀める会」、更に平成二年米寿を迎えられた時、平成四年永年住み慣れた室蘭を去り、東京へ転居される事となり、「東先生と昔を語る会」を催し多数の参会者一同先生のご健勝と永年に互る医師会並びに親交会に對する功績を讀え感謝致しました。

其の後大岩・飯島先生と中島町へご一緒した折、東京の先生に電話した処大変元気で過されて居られました。平成五年前記の先生方とLH研究会と名付けた会合に、丁度来蘭された先生も出席され大変喜ばれました。その折「東京では知己も少なく一寸淋しいよ」とか、「足が弱って、余り速く歩けなくてね」とか申されておりました。先生は現役を退かれてからも充実した晩年を過しておられ、時々いきつけの店で一緒にした時等カラオケに挑戦され、「命くれない」「雨酒場」等店の女性に習われる等、微笑ましい一面もございました。

平成六年五月来蘭された折、飯島先生と一緒に先生のいきつけの店でお会いしましたが、体調が悪く、あれ程好きだった酒も召し上がらず心配して居りました。その年の十一月、その店から先生に電話した処「先日、入浴中に身体の具合が悪くなり救急車で入院したが、元氣になり帰って来たよ。その内暖かくなったら室蘭に行くよ」との事で安心致しました。十二月の医師会の忘年パーティの席でご子息の浩先生から再度入院され、回復の見込みがない旨をお聞きしました。新年勿々訃報に接し、覚悟して居りましたが惜別の思い一汐で御座居りました。

東・本庄両先生は明治生れの氣骨を持たれ、剛と柔と性格の違いがりましたが、理非曲直のはっきりした方で共感する物がありました。

最後に両先生の御指導と御愛顧に感謝致しますと共に心から御冥福を祈るものです。

中村秀先生との思い出

高 島 信 治

(高島外科医院)

平成八年九月二十二日台風二十一号を避けて、旅行から帰宅すると中村先生の訃報を知らされた。つい一ヶ月程前、日鋼病院にお見舞いに伺った時比較的御元気で色々と雑談をし、早く退院をされて、又積もりましようとの約束をしてきた直後だったので、本当に驚いた。その夜お通夜に伺いお参りさせて戴き、本当に亡くなられたのだと実感させられた。翌葬儀の日の夜に北ロータリークラブの夜間例会があり、中村先生を追悼し全員で黙祷を捧げた。その折、隣りに編集委員の澤山先生が居られ、中村先生の事何か書いてと依頼された。

御存知の様に先生は博学でしかも多趣味な方でした。その先生と出会ってお付き合い戴いた四十五年間、特に思い出として残っている事を、思い付く儘に書いてみます。

出会

昭和二十六年北大医学部を卒業した私は、富士鉄(株)室蘭製鉄所病院(現新日鐵室蘭総合病院)で一年間イン턴としてお世話になった。その時、小児科医長として勤務されて居られたのが先生であり、初めての出会いだった。当時の室蘭、

特に富士鉄は非常に活気があり、病院も結構忙しく特に小児科は患者が多く、体格の大きな先生が身体に似合わない優しい声で「風邪がお腹に来たんだよ、お母さん」と診察して説明されて居た。此の時の声と、言葉が今でも私の耳に残っている。夜間往診も毎夜四、五件は必ずあった。急患を診る要領、往診の仕方等色々と教えて頂いた。

三友会

昭和四十五年私は現在地で開業した。中島地区は室蘭市医師会の当直割当等で第三地区と呼ばれていた。同じ地区で開業している仲間が、月一回の会合を開き懇親を暖める会、これが三友会であった。本庄、中村先生が中心で地区出の理事から医師会の情報伝達があり、後は雑談続いて懇親会、お開き後は麻雀好きが残って一戦を交えた。先生と再会し麻雀をしたのは此の時が最初だったと思う。

ロータリークラブ

昭和四十六年暮れも押し迫った頃「今度ロータリークラブを創るから、十一月某日某時、兎も角ネクタイを締めてニュージャパン迄出て来なさい」と先生から電話を貰った。ロータリーって何、全然内容説明も無く困惑していたところ、種田先生から「先生のところにも秀先生から電話来た。岩倉先生の所にも来たんだって、どうする」輪西迄わざわざ、出掛けるのも面倒だし、ロータリーだって何だか分からないし、

行くのは止めようと相談し一応は結論は出したもの、断ると後が怖いから一回丈行ってみるか三人で出かけて行つた。此の時が北ロータリークラブ設立準備会の時で、頭数を揃えるために我々を引きずりこんだのでした。当時東ロータリークラブより十一人が分れ、我々三人を加えて総数三十一人で創立されました。「ロータリーは出席が基本」と促され仕方なく輪西迄出掛けた。現在迄二十五年間、ニュージャパン、丸井デパート、ホテルサンルートと会場が変更はしましたが毎週火曜日、先生と出会うことになりました。先生御自身も雨の日、雪の日も本年夏頃体調を崩される迄二十年以上百%出席という偉業を続けられて居られました。先生が中心となつて設立した会が漸次会員も増加し、現在は創立時の二倍以上の六十五名に達しました。此の成長をみてロータリーに関しては大満足であつたと思います。本当にロータリーを愛し、又御健康で居られたから成し得た事と思います。

くらま会

昭和四十八年日鋼基友会に在籍していた関係からか、私はくらま会に入会させられた。此の会は各方面の職業人が参加する囲碁の会で、歴史は古く終戦後間もなく設立され、常時二十人以上の会員を擁していた様（巷では下手な有段者の会と陰口を叩かれていた）です。

ゴルフシーズンを除いて十一月から四月迄月一回日曜正午から夜迄数局碁を打ち、終了後感想を述べ合い盃を交わすのを恒例としていた。昭和五十年に今度は私が中村先生を紹介

して、此の会に入会して戴いた。此の会でも先生は亡くなられる迄、皆勤で囲碁を楽しまれて居られた。「黒と白のモノトーンの世界に広がる碁の世界、シンプルの中に勝負の絶妙な味わいが潜んでいる。碁の極意は人生の極意に通じる」とよく申されていた。どちらかと云えば早打ちで勝負に拘らず、淡々として打つ碁風だつた。結局先生とは何百回も対局したことになります。

ゴルフ

富士鉄病院時代から始められた様で、室蘭ゴルフ倶楽部がイタンキ浜に有つた頃からプレーをしていたそうです。ロータリーの例会で顔が揃うと週末のスケジュールが決まり、中村、岩倉、種田、私というメンバーで毎週ゴルフを楽しんだ。四人共同じ力量でスコアより口ゴルフと云うか、何時迄もハンデイが上がって行かなかつた。秀さんの難敵は白鳥コーズ、アウト六番、池越えのショートホールだつた、テイショットが真ん中にある池を越えるかが問題であつた。秀さんの打球はライナー性で殆んどが水面に落下し、波紋を広げる。段々と御機嫌が悪くなるので、とうとう池の向こう岸から打つて良いという「秀ちゃんルール」を作つた。時代と共にゴルフ場が方々に新設される様になり、秀さんもニセコ（蘭越）のゴルフ会員権を買われ、同じメンバーで度々引つ張られて訪れた。ニセコの旅館に一泊し、紅葉を鑑賞しながらゴルフを楽しんだ。勿論前夜は麻雀の勉強をして。

酒

お酒を飲めないで宴会に出席する程辛いことは無い。私も長年経験したので良く分かるが、秀さんは本当に真面目に出席された。学生時代新潟の繁華街へ繰り出して飲み歩いたと云う武勇伝は何回も聞かされた。何が切っ掛けで禁酒されたのか、その訳も聞いた筈だが思い出せない。「気違い水を飲んででもいゝが、飲まれるなよ」と良く説教された。若い頃は宴会の後も二次会、三次会と引っ張り出したが気持ちよく付き合ってた。晩年は宴会の最中に、終わってからの麻雀のメンツを集めるのが楽しみだった様です。

銀寿司

中島町の中心街に銀寿司と云う店が有り（現在はナガサキヤの駐車場）、中年の小母さんが主人の小ぢんまりした店であった。此の店の二階の座敷が秀さんの麻雀道場であった。前述の四人でゴルフを終え直接、又は帰宅后必ずこゝに集まって食事、そして飲みながら麻雀という休日の楽しみが本当に長い間続いた。畳も、敷物も、座布団も、座卓も全部新しく用意して呉れる様になった。秀さん以外の三人は、運動後の風呂上りということもあってアルコールの廻りも良く、時間の経過と共に声も大きくなり、秀さんが勝ち過ぎると秀さんが秀ちゃん、ちっこ等々悪口がエスカレートしていった。昼間頂いたチヨコレートの何倍もふんだくられ、頭に來て雀卓を引っ繰り返してお開きにした事が何回もあった。此の様

な時でも秀さんはニコ／＼と後輩の悪態を見て居られた。此の仲間では中村先生と呼ぶことは公の席以外は殆んどなく、「秀さん」^{ひで}「秀ちゃん」^{ひで}で通してました。

則天去私

私がインターンの頃は東室蘭西口より富士鉄病院迄真中に道路が一本走っている丈の田舎の町が、室蘭一の繁華街になるなんて、その真ん中に住居を構える先生の晩年の日課は愛犬のポメラニアンとの散歩であった。立派になったカラー歩道を小さい犬を先頭に、大きな身成り良い老人が、とぼ／＼と付いて歩いて行く姿はユーモラスで微笑ましい情景であった。もうあの先生のお姿を拝見する事が出来なくなった。先生の好きな言葉の一つに「則天去私」をあげて居られます。「寿命が来たので俺は先に行くが、余計な事は書くなよ」と叱られそうなのでこの辺で終わります。

本当に長い間ありがとうございました。心から御冥福をお祈り申し上げます。

思ひ出すまま

曾根 清孝

(曾根医院)

短くも長くも覚ゆ四年間

母を見舞ひて孝なほ足らず

子孝行か全員慣例集合の二日後に

逝きしわれらが母よ

九十八の齡よわいさらなる長生を

七十路ななそじの子は願ねがいたりしが

みちのくの愛子あやしの里さとの病舎びやうやに

見舞ひ来たりし春秋を懐ふ

終戦と引揚げと苦を重ね来て

いま故里の墓に安らふ

俗にいふ仲直りなりしか五日前

白内障を治さむと言ひし

言葉なきままに戻る日が多くなる

母ひたすら眠り給へば

骨壺こつぼに野位牌のいはいそえて飛機ひこう機に乗る

心さびさびと桜咲く日に

花に逝き青葉の寺に骨納む

母けふよりは父と並びて

老母おいははに会ふ只それだけの春の旅

古稀の春わが初旅は老母を訪ふ

しやくなげの葉のちぢんでる寒さなか

電飾を飾りし櫛暮せまる

欠航を気にして暮の母見舞ふ

いくそたび通ふ途かやこの道は

老いたる母の伏せる山里

道辺に目馴れし藁屋今はなし

たわわの柿をもぐ人もなし

付添婦に金子をやれと母は言ふ

々わかつているよ々頷く私

今日こそは泣くまいされど老母の

別れ悲しむ言葉を聞けば

胸痛を気にして父の墓洗ふ

秋雨の中みちのくの里

母恋なる文字はせつなし陸奥の

愛子の里に母病みます

雪見むと一人旅する北の町に

粉雪やさしく霨のごと降る

折々に

児玉直彦

(児玉泌尿器科医院)

【還暦】(平成三年六月二十九日)

さまざまに　むとせの流れ　かみしめる

【沖繩行】

沖繩に　眠りて守る　鎮魂碑

石垣の　蒼き海なり　珊瑚礁

【湯瀬温泉】

みちのくの　桜満開　つばめ交ふ

朝露に　しっとり桜　いろ濃くて

【メキシコ行】

メキシコの　荒れたる遺跡　もの悲し

【測量山散策】

目に涼し　孫ののびのび　芝の上

早朝に　挨拶かわす　さわやかさ

朝まだき　路上で露はむ　カタツムリ

明けやらぬ　港かすみて　霧笛なる

いつきても　四季それぞれの　測量山

座談会

科学は人間を豊かにしたか

松田幹人 斎藤光史

稲川 昭 国本孝夫 小玉俊典

編集委員（加藤・上田・村井・澤山・大久保・三村・斎藤）

事務局（高橋・小杉）

平成8年7月25日

於：ビーフハウス志摩



松田幹人



斎藤光史



稲川 昭



国本孝夫



小玉俊典

三村 科学という言葉で引いてみますと、自然科学、社会科学、人文科学の総称。狭義では自然科学を指す、とあります。今日のテーマはたいへん大きく難しいんですが、まあ、先生方が科学をどういうふうに捉えて、どういうふうに享受なさっているかという所から話が進めばいいかなあと思います。

私は非常にメカに弱いんで、ビデオをいじっても失敗だらけ。ジャンボが空を飛ぶ、ファクスの文字が空間を走る、科学的に説明されれば解るような気はするけど、どうも納得できない。おかしな司会者なんです——（笑）
乾杯しますか。

物と心

三村 齋藤先生は宇宙少年団の？

齋藤（光） 宇宙少年団、老健施設、体育協会、ライオンズに関係しているんだけど、子供たちはもう完全に宇宙時代に入っている。コンピュータを自在に操る子もたくさん居るでしょう。宇宙の世界を知るには科学がどんどん進歩して行かなければ駄目だし、体育でも運動を科

学的に考える時代ですね。

一方で、安心して畳の上で死にたいと望んでいるお年寄りの方を見ると、歴史と意思の大事な世代がいる。科学の進歩と心の平安とのバランス——非常に難しいけど、色んなテーマが二十一世紀に向けて生まれて来ると思う。

医学にしても、大学ではほとんどコンピュータで機械化されて、我々ついでに行けるかどうか。患者さんとの心の触れ合いが忘れられつつあるという指摘も多い御時世ですよ。

三村 宇宙衛星を上げたために二万種以上も新しい研究テーマが生まれたっていいですね。

齋藤（光） 月で煙草を吸う、その火が地球から見えて、誰がどこで何を吸っていたかが解るのは、もうすぐなんですよ。加藤 便利という言葉。こないだ常連

の婆さんが、健康相談・診断・治療など全部ロボットがやるようになったら先生方いらなくなりますが、という。ロボットを動かすさ、と答えたら「その仕事もロボットがするようにしたなら？」

こりゃ笑い話ではないと思った。
故障、誤操作にしても部位によっては

全地球の大惨事にもなりかねない。便利追求も程々、もういいや、とね。

稲川 本来、便利はいいばん良い事だと思っんです。より真実に近づくといい点で科学はまず間違いのない。でも、僕らの時代と加藤先生の時代と子供達の世代では科学の進歩に伴う違いが、断絶が生まれます。受入がまずなくなり、心と時代の軋轢がでてきて、三村先生の領分になるんですよ。

働かなくてもメシが食えるほど便利になつて晴耕雨読、趣味人生が理想的なのかなと。何もやる事がなくて自殺したいなら、それもその人の自由。しかし資本主義の価値観やら競争心理やらで、科学の進歩を享受できないのではないかと。

人文科学あるいは宗教的な面からでも素晴らしい人が出て、新しい人間価値観でコントロールされる社会になつてほしいと思つてゐるんですが。

松田 長い宗教の歴史からみれば科学は短い年月です。科学に對峙するものが心ではないと思います。物の本質なり真実なりを追求して行くのがサイエンスであつて、心は別の分野というかフェイスだと思ひます。あくまでも、人間が心を

持っているんだぞという前提の下に科学が進歩しませんが、非常に片手落ちというか、つきつめて言えば危険が沢山出てくると思います。

医学はものすごく進歩しました。ただ人間の体を物として見て、顕微鏡的から分子生物学、更に遺伝子と研究なり真実なりが深くなった。しかし患者さんにはもうひとつ、非常に重大な心というものがあります。その双方が両立して行かないと必ず突き当たるだろう大きな矛盾。その医学の大きな問題はすでにもう出てきているんです。

三村 僕もそれを痛感します。国本先生はどうですか？ 享受されている方ですか？

国本 コンピューター通信もやってますし、享受している方なんでしょうね。便利になったのはそれなりに良いと思っています。科学が進んで得られる良い面がある反面、怠けるといふか失われていくものも当然出てきますね。また、最先端の所ではすごく儲ける事ができるし、コンピューターを売って金を稼ぐ偽宗教もあるように、人間性が悪くなっているような気がします。

SFが好きで小さいときから読んでるんですけど、夢がそれなりに実現していますし、全くの絵空事ではなくなっている。危険については警鐘的に必ず書かれてるんですが、どうなっていくんだろううなあと。

小玉 家にはコンピューター十何台ありますし、医療機器も含めるなら僕なんともいえません。私は、科学というのはロジックだと思うんです。真理を見つづけるための一つの手段として論理を追い求めて行く。もう一方にパトス、パッション、情念がある。

こういつた事をやりたいと思つた時にパツと物を与えられる訳ではなく、階段を踏み、一つ一つこなして行かなくては駄目なんです、その方法として科学があるのかなと。最初のパトス、パッションが無かつたら、それは単なる数式の羅列になつてしまふ。この二つがかみ合つて人間はうまく生きてゆけるのだと思う。

科学の便利さも、恩恵もをこうむりたい人が受ければいいんで、俺は要らないよ、デカルトの本一冊有ればいいよ、というのも一つの真理でしょう。

医者の情熱と気持ちに患者に傾いていかなければCTも何の意味も無い。

斎藤(甲) 三村先生は機械音痴だと言いましたが、僕は機械大好き人間なんです。医者にならなければ、今頃どこかのメーカーで先生が七転八倒するような機械を作っていたのではないかと思うんですが(笑)、でも、そうならなくて良かった。

というのは、科学技術の進歩が非常に早いです。僕が最初に手にしたコンピュータというのが8ビットの機械で、メインメモリーが64キロ位だった。いつの間にか16ビットになり、今は32ビットでメインメモリーが32メガバイトです。から、とんでもないものになつちやうです。それがたつた二十年の間に。

折角覚えたものがアツという間に使ひ物にならなくなつてしまふ。おそらく技術者もスクラップされていると思うんですが、ただ、科学というのも人間のロマンですから、ロマンを追い求めた結果が速い進歩につながつたと思うんです。

三村 アメリカで今、村や町で%の人がコンピューターで情報交換している。やっていない%がノイローゼになつてい

るといふんです。疎外感からだそうで、私も入る訳で（笑）、そうなるに進歩というふうには理解できない。

加藤 ヨーロッパ系の人達は疎外意識に敏感で、弱いかもしれない。モンゴリストの方がその点では強いはずですよ。

あまりキチキチとメカに付き合おうと、エロスが喪失してしまうような気がするんだけどー8ミリ・シネいじって四十年になるかな。整理するんでビデオカメラ買った。アナログそしてデジタルをね。デジタルはアナログに比べ確かに画質はピチツとしているんだけど色調に匂いが無い、エロスに不満。フィルム画像の方がはるかに色の諧調が豊富なんです。

斎藤（甲） デジタルだから駄目だというのではなくて、デジタル技術がまだ幼稚なんです。データ量が増えればアナログは負けちゃうんです。CD聞いた時の直感ですね。僕自身も最近アナログも聴くようになって、アンプを真空管に乗り換えちゃったんです。スーパー北斗から蒸気機関車に乗り換えるようなものです。人間の感性は真空管の音の方を好むという面があるんですね。

小玉 でも、今の子供達は前のLPの

音は知らない。CDそして今度はMDだと言ってる。要するにデジタル感性なんですから。天然のものより養殖鮭が旨いよと言うのと同じで、何が良いかという価値観は、その世代世代が作って行くものでしょう。

去年、若田さんがスペースシャトルに乗った。うちの子供達がケーブケネデイに行つて朝の四時か五時頃に打ち上げを見てすごく感動したと言うの。僕も大きくなつたら乗るんだと。それは一つの夢なんです、その夢を実現して行くのが科学で、そのもたらすものが人間の幸福につながるかどうか。これはまた別ではないかと思う。

斎藤（光） ジャガイモ掘りに宇宙少年団の子供達を連れて行つたりすると、ものすごい驚きと喜び様なんです。畑に球根植えて育てて・・・そんな過程を知らない子供が殆どですから。じゃ今度は稲を米を作ってみようとかね。

自然に還るといふことはこんなに楽しい事なんだよと、今子供達に伝える事が絶対必要だと思ふ。ケネデイに二回行っているんだけど、実験場の周囲の植物は全部死んでいます。火事の跡のように。

そのことには子供は殊にまったく無関心で、すごい感激を受けるだけ。自然破壊にもつながるんだという事も併せて知らせ、伝えて行く必要があると、我々大人は感じて来たんです。

加藤 宇宙科学者が皆、斎藤先生のように芋掘りの楽しさを子供達に伝えてくれる人達でもあつてほしいなあ。

大久保 今日のテーマはですね。聞いていて私が出る幕じゃあないとーというの、こう思えばこう、こう思うならこう、どっちにもなるんです。科学は進歩すればするほど人間に唯物的には確かに便利さを与えてきました。核爆弾にして、これほど効率的な便利な殺戮兵器はなかったわけです。

不幸というのはですね、人間は非常にエゴな生物であつて、自然破壊だと叫びながら自然に一番手をつけている。ロケットにしても、なぜ汚染された地球物質を宇宙にばらまくのか解せない。寿命がきたら死ぬのが宇宙の摂理なら、無理に長生きさせて医学の進歩と胸を張るのも変な話で自縄自縛かもしれない。

だから科学というのは、人間の身勝手にとつては絶対豊かにした。生物学的に

いえば絶滅の時期を早めるためには非常に適しているんじゃないですか。

現代のどこか少し狂った人間を幸せにしたのが科学というもの——これはまた後で変わるかもしれません。

三村 非常に、何ていうのか、楽しいというのか、今のお話。(笑)

さて、総論的な話から次は各論的に、特に医学の分野ではどうということになるでしょうか。

医療の世界では

上田 常に生と死を見つめている医者にとつては、テクノロジーの進歩を願うのは当然の事だと思います。しかし全部ではない。編集の者が集まって雑談をした時も、批判的な意見も多かったのです。脳死、臓器移植の論点にしても結局は価値観の問題、生と死の問題で、ロゴスとパトスの境目の所になる訳です。

遺伝子組み替えにしても、治療の領域を越えた暴走、コピー人間まで行くんではないか、とも言われ始めていますね。

澤山 尿毒症になったら、殆ど皆安静のまま数か月後に亡くなっていたんで

すが、人工腎臓が開発されてから助かるようになった。あの頃、十代、二十代の新婚早々の若い人もいて、その人達も二十一年生きて来ているわけです。透析療法の医者として、科学技術・医学の進歩の貢献を肌身で感じています。

僕が始めた頃はまだ台数が少ないため米国では覆面委員会に諮って適用する人を決めていたんですが、日本では急激な拡がりをみせ、医療費圧迫の有力な一因というわけで白い目で見られるような状況にまで透析患者がすごく増えたんです。今ではガン患者にもやります。いわゆるマカロニ症候群みたいな状態にまでもって行く意味についてはどうなんだろう、とは考えさせられますが、心の問題を含めてのこれからの課題だと思います。

もう一つ別の事なんですけど、我々世代が清々しいと聞く風鈴の音を今の子供はうるさいと文句を言う。中年以上の方にとつて嫌な携帯電話の信号音は若い人達の耳に不快でも何でもない。世代の違い——これまでのお話を聞いていても感じますよ。

小玉 日本ではまだまだなんですが、海外の生体肝移植は非常に多いんです。

アメリカは勿論、今オーストラリアが多い。日本からもかなりの人が行って移植を受けているんですが、ブリスベーンに行っていた先生に、何故かと聞いてみましたら、あそこは移民の国だから東南アジア系のドナーが沢山居るということでした。

日本人の場合、自然と共に生きて来た長い間の生命観みたいなもの、宗教観でもあるし、儒教的な影響もあるでしょうが、体を部品の集合と考えることに大きな抵抗があります。その点、ロジックを追求めるヨーロッパの合理性は割り切ることが出来る。私思うんですが、明治の時代ではないが、和魂洋才——西洋の科学を日本人の心で律する——これからもこの考え方は必要なんだと。

遺伝子の優劣にしても簡単には決められない。ヨーロッパでは溶血性貧血を起す鎌状赤血球ですが、アフリカあたりではマラリア熱に非常に強い。科学と離れた倫理の目を人間が持たなければ科学の発展の目的そのものが解らなくなるのではないのでしょうか。

三村 科学の発展で救済される人達が増える。その裏面に必ずドロドロしたも

のが生じて来る……。

小玉 本場に科学が進歩したら臓器を人から人に移すのではなく、人工臓器が最終目的になるでしょう。そうなったら人の本質で何だろう。私の性格、知識、過去の思い出などを全部コンピュータに入れたらそれが私なのか、違う。結局人はハートなんです。ここ（胸を指す）なんです。頭じゃないかもしれない。

上田 そうなんです。サイエンティックな、例えばフランケンシュタインみたいなものやサイボーグなど、頭以外を全て機械のパーツにしてしまう、そういうものが果たして人間に値するものなのかという事。

小玉 ですから心は頭にはないんじゃないかと。全体ですね。五感を経てインプットされる訳ですから、その五感が変われば性格も変わるかもしれない。人の持っている寿命——神様が作ってくれた蠟燭の灯を勝手に消される事のないように守ってやるのが私達の仕事ですね。

松田 医学はとにかくその病気を治そう治そうと努力してきたんだけど、時には患者不在で、本当に必要かどうかかわからないような技術だけが先走ることが

あります。だけど、患者を癒すということとは別な次元の問題ではないか、と僕は思うんです。

人によつては、たとえ病気になるってもそれが自分の人生なのだと思容して行く人もいるかもしれない。人間の個性を度外視して病気を治す方に集中する傾向が、今強すぎるのではないか。人間にはどんな形にせよ寿命があります。その上に立って人間の価値とか生き甲斐とかに視点を向けての医療技術の発展・応用でなければ、必ず矛盾が出てくると僕は思うんです。サイボーグみたいな人間は誰しも望む形ではないはずだし。

稲川 僕は反対だなあ。小児科として寿命という考えは……とでも。

大久保 確かに松田先生の言うとおりの傾向になっていると思いますが、患者さん達が自分の寿命、終末をですね、どの程度認識できるものでしょう。というのは医学が進めば進むほど人間は希望的錯覚を起こしてきますし、平均寿命八十八歳だから七十は若死にだと通夜の席で話しているんですよ。

それとですね、本来宗教家がやるべき事を、告知だのインフォームドコンセン

トだのと、なぜ医者に押し付けてくるんでしょうね。

上田 宗教、哲学の問題に入っていると、最近ではもう神の果たすべき役割は終わった。神は死んだと考える宗教観も出て来た。敬虔なカトリックの修道女であったカレン・アームストロングの「神の歴史」などはまさにそうです。宗教が果たしていた、死を迎えるに当たつての心の拠り所を失ってきているのです。

三村 人間が生まれない前から関係を持つて来られた村井先生、なにか。

村井 今、遺伝子診断というのが流行っていますけれど、遺伝子の全分析はまだ何十年間かかるらしい。出来上がった時点では遺伝子診断は普通になるでしょう。あなたは肺ガンになる、あなたは胃ガンになるというのがわかる。そうなって、さあ遺伝子診断を受け付けます、となつた場合に皆行くのでしょうか。

三村 先が分からないから幸せだという事があります。

大久保 一番の予防医学でしょう。

加藤 遺伝子科学はそこまで知りたいでしょうし、行きますよ。

稲川 臓器移植などに関して、小児科

の僕としては大前提となる考え方があるんです。それは、こうなったら幸せだとか、不幸だとかいう事を、第三者は考えない方がいいだろうという事です。

現場で実際に遺伝子診断の結果でダウン症の子がいるとかいないとかの場合、今の医学であれ何であれ、死んだ方が良くないという命はない、それは誰も決められない。陽性チェックを希望する母親が居るなら受けさせてやりたい。偶々ダウンの子が生まれたら、あなた達は不幸になるよとも言えない。生んで懸命に育てているお母さん方は、その子によってどれだけ色んな事を教えられたか。障害児を持つお母さんは、僕ら以上に色んな事を考えて、それを僕らに教えてくれるんです。そういう繰り返しですから、相手が幸福か幸福でないかとかを僕らが考えちゃいけない事なんです。

ブリスベーンかどこかでCBAの子が肝臓移植を受けて、こんなに元気になったと言ってデングリ返しをやった映像を見てすごく感激したんですが、決定保留して居ることによって死んで行く人も沢山いるわけです。議論も良いが、もう少し違った形で進めてほしい。金で売買す

るとか色んなくだらない事が起こってきたら、それは起こってきたで行政の人や皆が考えればいい。グジヨグジヨ言っている間に死んでいるんです。

小玉 肝移植の場合、何を最優先にするかが問題になると思います。オーストラリアではアルコール性肝障害でもやっています。二か月間禁酒できるかといういわば将来価値を問うわけで、やる前の選別を常にやっている。

日本で行われる場合は先天性肝疾患が優先されるでしょう。現状で行なわれている父や母からの生体移植が正しいのかどうか、私はとんでもないと思う。というのは健康な人間を不健康にするわけですから。最終的には死体肝移植でしょうがそう簡単にはいかない。

遺伝子治療ですが、アデノシンデアミナーゼ欠損症の患者さんには素晴らしい福音だと思っていますが、出生前診断で色んな理由で摘まれてしまったら——あの大江健三郎さんの息子の光さんの芸術性は障害と無関係である事を思えば、難しいですけど色々考えさせられます。

上田 そうですね、それと稲川先生のお話も良くわかります。ただ、もう一つ

人生の終末を迎える時にそこまで介入して行く事がどうか、という問題がありますね。

稲川 最終的にボンコツになった人まで臓器移植はどうか——わかんないですね。人生って本当に生きる価値があるかどうか、そこもね。自殺する権利だけは保持したいというか。

国本 うちの爺さん（故亮平氏）伊達に来てから、人間何のために生きているんだとか、よく話しましたが、覚えているのは、爺さんが若い時には人生五十年で、それが六十になったら八十までになり、八十になったら百まで生きたいというのが人間なんだ。死ぬ事は怖くないがただ苦しみたくなはないんだ、ということでした。

医者って命を助け、伸ばしてやる事が仕事なので、それによって色々な弊害が起きて議論になるんですが、どうしたらいいのか考えても結論は出ないんです。ここで断ち切ってしまうと、それが出来る民族は結論が早く出るんですが、日本で今、一番欠落しているのがたぶん情操教育だと思うんです。臓器移植の抵抗性と関係あるのではないでしょ

うか。

医者は命を助け、なるべく生き永らえるように努力し、医者以外の所から制限とか受け入れの実際を調整していくしかないんじゃないか、と最近では考えているんですが。

(この後、安楽死、尊厳死についての意見が交わされて)

三村 遺伝子の診断技術が進めば疾病の克服がドンドン可能になることは間違いないですね。

齋藤(甲) 科学というものは我々にいろんな手段を与えてくれたわけですけど、死ぬべき人も死なないということになれば、その手段を行使する、しないは誰の裁量に委ねられるのか、非常に難しい時代になると思います。

加藤 医療の世界での科学の貢献度は誰も疑わない。まだまだ進歩してほしいと願いますよね。広く考えて科学を律するものは何かとあったら、無い。今は無いということですか。

稲川 律していないから良いんじゃないですか。

加藤 いや、原爆の例がありますよ。

マンハッタン計画に参加した一万人くらい科学者や技術家は、自分達のしている事が最終的にどういう事になるのか全く知らなかった。本当の怖さです。

科学技術の暴走を防ぐためにあらゆる知恵を人類は動員しなければ、と思うんですが、正直なところ悲観的なんです。ホモ・サピエンスだなんて胸張っているけど何の事は無い、一番最初のDNAに振り回されているに過ぎないんじゃないかって。

三村 大変難しい、簡単には結論の出ないテーマなので、皆さん言い足りない事が一杯だと思うんですが、村井先生。

村井 お話の中に、対極点として心と物という問題がありました。第一次産業革命が起こった時、蒸気機関車ができて便利にはなったが労働者が増えました。金を得るために一日中稼ぐ、それが果して豊かさであるかどうか。

第二次産業革命、マルチメディアの時代になって、三村先生は疎外感になやむとおっしゃる。(笑) コンピューター化にともなう精神障害や異常の人も出て来て……まあ、インターネットで日なのを

出して楽しむという良い面もあるんですが。(笑)

豊かであるということには、感覚的・情緒的に例えればいい絵を見たり、緑一杯の風景を眺めて楽しむ、また食欲や性欲など身体的な満足といった、いわば自然に湧いてくるもの。一方で科学・技術・生産。これには必ず金と物が絡んでくるわけです。

現在どういう状態かというところ、後者の方がともすれば支配するような世の中になっっているものだから、物と心の両者をいかに調和させ、統一したものにするかが、これからの課題なんだろうと思うわけです。

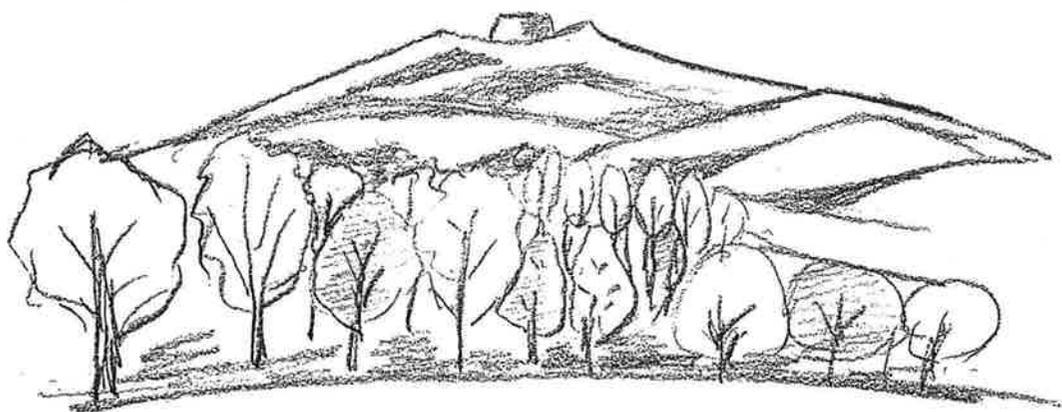
稲川 失くなったものといえば、僕達の学生時代には書店に並んでいた岩波の赤とか色んな本もそうですね。

加藤 テンポが早すぎますね。だから過程が消えてしまう。

澤山 今日グレードの高い座談会でありがとうございました。私も先程申し上げましたが、世代の差といいますか、それを非常に感じました。でも、それが人生なんでしょう。

ご苦労様でした。(拍手)

あ ん ら く い す



マラウイ通信

(娘からの手紙)

その一

大久保 洋 平

(大久保病院)

青年海外協力隊 (※JOCV=Japan Oversees Cooperation Volunteers) に応募した智子が我が家を発ったのは一九九六年四月四日であった。東アフリカの一国マラウイ (MALAWI) のブランタイヤ市のクインエリザベス・セントラルホスピタル (※OECH) で二年間、栄養士として勤務するためである。それまでマラウイが何処にあるかも知らなかった私としては送り出した後、無事到着したかどうか最初の連絡が来るのを一日千秋の思いで待っていた。

四月五日にマラウイ赴任組十一名が一緒に成田を発ちロンドンを経由して約三十時間の空路の長旅と聞いていたので、途中の無事故と別便で発送した荷物が無事に現地に着くかなど心配事が次々と湧いて来る。そして待望の第一便が我が家

に届いたのは四月二十二日であった。智子も初めて見るアフリカはすべてが珍しく、その文面は現地の様子を詳細に知らせているので私同様にマラウイをご存知ない方も多く居られると思われるので、娘に内緒で手紙の内容を支障りの無い範囲で紹介してみようと思う。その後も毎週のように手紙が来るので暫く波久鳥の誌面をお借りしてマラウイ事情の一端をお知らせしようと思いついた次第。手紙はほぼ原文のまま。注釈(※)は私。

昨日(四月六日)午前十時三十分頃無事リロングウエのカムズ国際空港に到着しました。約三十時間の空の旅は全てビジネスクラスだったためとても快適でやっとのんびり眠ることが出来ました。でも眠り過ぎてデイナーを食べそこねてしまったのがとても残念ですが……。マラウイは今、日本の秋にあたり気温は十八〜二十五度位だと思います。朝晩は半袖だと少し寒さを感じます。今日イースター休暇なので街を散歩しました。沢山の花々が美しく咲いています。

※四月二十二日室蘭配達。



今日(四月十一日)でオリエンテーション(金銭、防犯、交通安全など)も終了し明日からチチェワ(チエワ語)訓練です。マラウイの上流の人はプライマリースクールで英語を習うので good speaker ですが、現地人同士ではチチェワです。街の人達が何を話しているのか全く判りません。でも彼等は実によく私の片言の英語を理解して呉れるので何とかなるものです。スーパー等は朝七時から開店します。今朝の食事はドミトリーでレーザーンマフィン、トースト、ゆで卵、バナナ、マラウイティーでした。昼食はレストランで。ハム・マッシュルームピザ(七十五MK)とマラウイティー(十MK)でした。一MK(マラウイクワチャ)＝七円位です。五十MKでダイナーが食べられます。紙は高く、買った動物カード一枚九MK、日記帳五十MKでした。

初めてバス(シティーバス)を利用してみましたが十人乗りのミニバスに二十人以上乗ります。女性は殆ど歩いていきます。

Mulibwanji? (お元気ですか?) Ndil-bwino (私は元気です)。いま現地語訓練

に励んでいます。英語もま、ならないのに、もう次の言語を学習しなければならいなんて、もう悲劇的です。毎日毎日お経のようにチチェワを唱えています。一カ月後にはこの言葉を使って仕事をするなんて全く信じられません。思ったより英語の出来る人が少ないのです。語学訓練以外はとても順調で週末にはディスコに行ったりテニスをしたり日本に居るようですが、寝る前に蚊取り線香をたいてマラリアの薬を飲む時、やっぱりアフリカなんだと思うくらいです。四月十九日。

五月四日から七日まで現地訓練最後のイベント、ビレッジステイに行ってきました。これはマラウイの村に四日間、一人でホームステイして現地の人(はつきり言って下層階級の人たち)の暮らしを体験し、チチェワの上達を目指す……といった目的の旅行なのですが、毎日ホテル住まいだった私にとっては「トイレが臭い」とか「食事がまずい」とかいいうビレッジステイの経験談を聞かされていて、もピンとこなくて、ずうっと楽しみにしていたイベントの一つでした。今日はそ

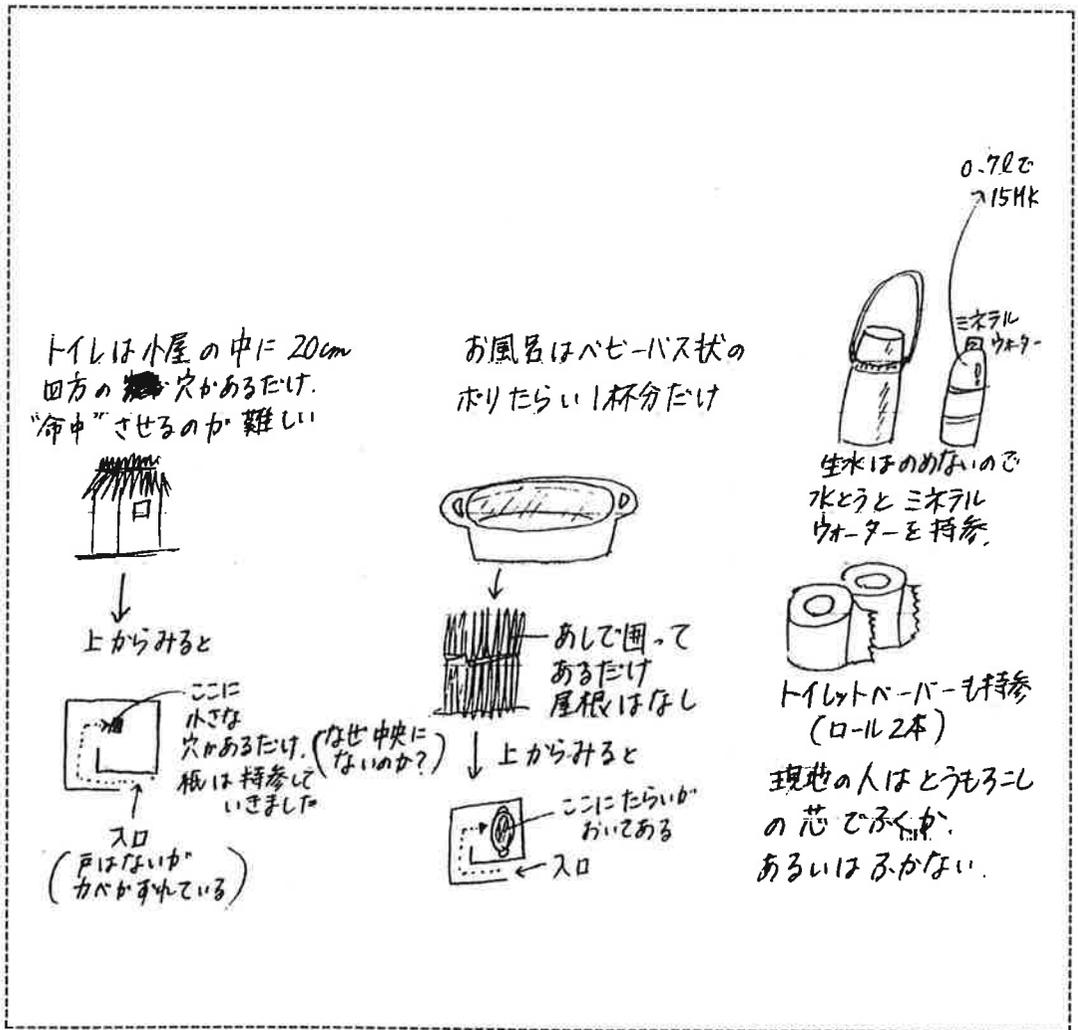
の報告です。私が行った所はプランクタイヤ(B.T.)からバスで三十分のルンズ(LUNZU)と言う村です。そこは電気も水道もまだ有りません。私たち十一人の隊員は一つの村に一〜二人といった割合で各地に分散して現地生活を体験しました。私のホームステイ先はチマンガ(とうもろこし)農家でサラリーマンのスマス家です。Abambo(主人)は英語が話せますが他の家族の英語は理解出来ませんでした。

私の部屋は三畳間ぐらいで土の上に萱のゴザを敷いてある超簡素な部屋で隣はヤギ小屋でその向こう隣が豚小屋で萱ぶき屋根です。最初は豚の臭いで食事の味が判りませんでした。ちなみに食事は三日間大体同じで、朝食(トースト一枚、ビスケット三枚、マラウイティー)、昼食(シマートウモロコシ粉を熱して練ったもの、豆の塩煮、ゆで卵、トマトの煮込み)、夕食(ごはんは昼と同じおかず)。その他におやつとして砂糖入りのお粥、ゆでかぼちゃ、ピーナッツ(生で食べます)、ゆでいもを出して呉れました。実はこれはJICAがお礼として出しているお金(四百MK)の中からお客さん用に出

してくれた食事で普段の彼等の食事は、
これらの中の何品だけらしいです。

一番大変だと思ったのが水汲み。全て
女性がしますが頭の上に十五〜二十ℓの
水を入れたブリキのバケツをのせて、背
中に子供を背負って一km離れた井戸か
ら家まで上手に運びます。私は頭の上
に載せられないので十ℓ位の水を持ち手
の付いたバケツで運んだのですが一kmの山
道を歩くとバランスがとれなくてスカ
ト(チテンジ)がびしょびしょになっ
てしまいました。井戸に来ていた他の誰
よりもバケツが小さくて「アズング、ア
ズング(外人)」って皆んなに大笑いさ
れました。私がこぼした分はコップ十杯
〜十五杯位あったでしょう。何度も「Peg
君(ごめんなさい)」と謝りましたが本
当に申し訳なかったです。

五月十一日で長かったチチエワ授業も
終わりのよいよ五月十六日からブラン
イヤ(B.I.)に着任します。B.I.はリ
ロング(L.L.W.)に比べるともう大都会で
ポロポロの服と靴しか持って来なかった
私は早くも少し後悔しています。皆すご
く素敵でL.L.W.のように裸足の人やチ



テンジの人はあまり見かけず女性のスラックス(中にはショートパンツの人もいる)やノースリーブも見ることができません。

私が入居するフラット(アパート)は古いけれど仲々広いです。掃除をするのが大変かも知れませんが、部屋は寝室2(ベッドは3)、リビング1、キッチン1、バス1(バスとシャワーは別々にある)。収納するクロゼットは各部屋に大きいのが一つづつありますが……荷物が何も無いので多分使うことはないと思います。一番心配していた防犯の件ですが中国製の鍵を売っている店を見つけて沢山買い込んだので日本から送って貰う必要はなくなりました。いくら鍵を付けても安全という訳ではないのですが戸締まりをして寝ようと思ったら二十ヶ近いキーの全てを確認してから寝なければなりません。例えば①玄関 メインキー、オートロックキー、南京錠(日本から持って来たもの)、メインキーをロックするキーのキー(JICAの推奨品)、ダイヤル式のキー。②寝室 メインキー、お出掛けロックキー(JICAからの貸与)、オートロックキー、クロゼットキー(四箇)。③その他

もう一つの別なベッドルームのキー、台所のキー、スツーカーズのキー、風呂場の窓のダイヤルキー(日本製)、寝室の窓のチェーンロック、ハンドバッグ用の小さな小さなキー(マラウイで買いました)などです。こんな風なので夜中にトイレに行こうとしても四方所のキーを使わなければいけないのでJICAのスタッフに「間に合わない」と訴えたら大真面目に「尿瓶を使ってはどうですか」と言われてしまい、さすがに言い返せませんでした。

ここから五月二十三日です。私は五月二十六日まで引越し休暇をもらったので毎日家の雑用をしたり近所の子供と遊んだりしています。ボール遊びをしたのですが私の方はヘトヘトになってしまいました。私のフラットに住んでいるアズング(Azung=外国人)は私だけですが近くのフラットに先輩隊員のMさんが住んでいるので気軽に行き来しています。彼女も医療隊員(薬剤師)で同じ年なので親しみやすいです。それからもう一人出た友人はポルトガル国籍でモザンビーク生れ、マラウイ育ちのインド人Sさんです。私の防犯対策に本当によく尽くし

てくれて判らないことや、困った事は何んでも彼に聞いています。ちなみにマラウイの商店の9割はインド人で、その殆どが社長です。Sさんのお父さんも材木問屋を経営しており、Sさんも二十七歳にして高級車ベンツを乗り廻しているお坊ちゃまです。私の住まいから坂を下ると十五分でオープンマーケットに着きます(帰りはつらい)。野菜や果物、古着、金物、なぜか薬も売っています。ラジオや靴も有りますが殆ど盗品(!!)だそうです。野菜を買う時、まけて呉れる人もいればアズングだと思って高く売りつける人もいます。かけひきが難しい。最近私にも上達したけれどはじめは怖かった。

今日から六月に入りましたがマラウイは冬の季節ですごく寒くてストーブをつけています。仕事始めの日は一日中霧雨でまるで室蘭のようでした。職場は歩いて十五分位の広い広いそしてすごく貧しい病院です。まだ大した仕事はしてないのですが食料も器具も全くないので、どっちにしろ大した仕事はないでしょう。六月二日から六月四日までJOCVのマラウイ栄養士の分科会で湖沿いにあるマラ

ohakota (コタコタ) という村に行き病院見学や村人への衛生、健康教育の様子など見学しました。コタコタはマラウイの中でも北寄りなので暑くて夏バテしそうだったので、昨日B.T.に帰って来たところからは雨で寒くて一晩で重症のカゼをひいてしまいました。コタコタへはB.T.→L.L.W.のコーチラインで三時間半、更にL.L.W.→コタコタへ車で三時間です。コーチラインというのはノンストップで走る高級バスで料金は二百四十五MK、もしミニバスを利用すると四時間半位で九十八MKです。いかに高いか判るでしょう。私は何度かB.T.⇄L.L.W.を往復しているけどコーチに乗ったのはまだ二回しかありません。乗客は殆どアズング(外国人)でした。

六月七日。今日六日振りに病院に行ったら九通もの手紙が届いていました。マレーシアからジンバブエ、ボツワナ、エチオピア……協力隊員やってて良かったと思う瞬間です。その中にうちからの手紙(五月二十二日付)も入っていました。まずは質問に答えます。①アナカン(※出発時に送った荷物)は全て無事届きま



した。②日本からの手紙は順番はバラバラですが全部届いています。③マラウイの食事についてですが、肉や魚はやはり日本より少ないです。ここの病院の基準(一般食)は二千九百Kcalで蛋白五十一六十gです。これは有料病棟の食事なのでnon-payingの二千Kcalの二十五位かも知れない。肉は金曜日だけで月々木は豆のトマト煮です。三百六十五日メニューはほとんど同じよう調味料はトマトと油だけ(塩は高い?)そうであまり入れない。そのかわり裕福な人はとんでもない位塩をかけて食べる。それが一種のステイタスシンボル)なので、日本で一番キライだった「毎日の栄養計算」をする必要は全くなしです。何かむなしけれど。

B.T.はマラウイの都市なのでL.L.W.以上に色々な物を手に入れることが出来ます。中国人やインド人が経営している店は高価だけど品揃えや品質はいいです。お金持ち(インド人を中心とした外国人)はマラウイに居ながらロブスタもピフテキもシヤネルの香水もベントもCDもTVも手に入れられる。でも大勢のマラウイアン(彼等の八十五%は失業中だそ

うです)はショウウインドーを見ているだけです。そして更に貧しい移民や難民(主にモザンビーカー)は強盗やスリを繰り返しています。彼等は皆心からお金さえあれば……と思っているに違いありません。そして私達JOCVは「お金で買えないモノ」を求めて豊かな日本から貧しいマラウイへ目を輝かせて来ているのです。こんな皮肉なことはいんじやないかしら……。

クイーンエリザベス・セントラルホスピタル(OECH)は千二百床の平屋の本当にホントに広い病棟です。まだ全病棟には行っていませんが、今日はマラリア病棟、結核病棟、低栄養児病棟を見学しました。子供の患者の七〇八割がエイズで、ひと目でそれと判る赤ちゃんが沢山います。病院での死因の一位はマラリアですが近い将来エイズがトップになることは間違いないと言われています。マラウイには現在医師一人、看護婦二人が日本の協力隊員として活動していますが、日本政府では今後は医療隊員(薬剤師、作業療法士、栄養士を除く)を派遣しないことも検討されているそうで、それ程エイズのリスクは高いのでしょうか。これ

以上、世界的にエイズが増えるのであれば医師、歯科医師、検査技師はJOCVからいなくなるかも知れません。本当は彼等こそが求められているのでしょうか。

病院の物資不足は深刻でガーゼもカテーテルもなく、気管切開している患者がいて傷口が生々しくて、私は「あ、この人ダメかも知れない」と思ったのですが次の日から少しづつ、回復しているのびつくりしました。日本の患者なら確実に感染症を起こして肺炎になってると思うけどね。病院のキッチンでも衛生管理は全く出来ていなくて生乳の中に手を突っ込んだり、洗剤もスポンジも無いので食缶も満足に洗っていない。でも誰も食中毒なんて起こさない。実に遅しくこの貧しい不衛生な病院に順応しているのです。

六月二十二日。来た頃は街中花で溢れていましたが今は冬、枯れ葉の舞い散る毎日です。今年は雨が多いそうで乾期なのによく降ります。ロロの人達は皆すごく喜んでいきます。職場の人に「トモコ雨は好き？」と聞かれて単純に「ノー」と答えたのですが彼女に「私達は皆、雨を

待っている。今年は雨が多いからチマンガ(とうきび)も沢山とれたし断水もない」と言われて、またまた反省してしまいました。

私は今、栄養士として食改善を勧めているのですが食教育ってモロに母親教育なのだとしみじみ思います。地域の食生活をより良い方向に変えて行く力を持っているのは外国から来た栄養士でなくて地域の母親達です。彼女達は素直に私達の話聞いてくれますが、応用力や実行力が驚くほど乏しいので「聞くだけ」になってしまいうことも多いようです。日本が食物自給率が三割を切っているにも拘らず、いつも食物があふれているのは保管能力に優れているからです。保存することが出来れば天候に左右されずに或る一定のレベルの食水準を保つことが出来る。例えばマラウイの人が全て冷蔵庫を持っては彼等は何とかお金をやりくりして魚や牛乳を買うことも出来るでしょう。栄養士を日本から呼ぶぐらいなら電気工事を推進してあげたらと思ったりします。現在主にしている仕事は病棟訪問、特別食の指示や調理、食数管理など基本的には日本の病院栄養士と同じなのですが、

兎に角、院内は広いし（平屋で千二百床だもんね）私のチェワ語は幼児並みなので日本だったら電話で済ませるようなことでも全て病棟に行つて確認しなければ解らないので一日中脚が棒になるまで歩き廻っています。職場の同僚は「?????」と思うぐらい働かない人も居るし、外国人嫌いなのか意地悪い人も居ますが、日本で一度会つたングルウエさんは本当にいい人で真面目でよく私をサポートしてくれます。彼女は日本人に馴れているので私の英語をよく理解してくれます（他の人には通じない）。

昨日（六月二十五日）誕生祝の手紙受け取りました。私に小包を送りたいとのことですが、私の方は何んでも大歓迎です。若し荷物を送つてくれるのであれば次の物を入れて下さい。

……………是非欲しいもの、黒いタイツ二十足位。こちらの人は基本的に冬でも素足なのでストッキングはまだしもタイツははかないみたい。B.C.の店で探したんだけど無かった。

※後日、タイツその他雑貨諸々を郵便

小包で発送（五kg未満の段ボール箱一個で送料一万七千円也）。約三週間で届いたが受取り時に千円（約七千円）の関税が掛つた由。

明日はチュニスか、 モロッコか

上田 智夫
（上田医院）

思い入れ

かつて青年時代に見た映画、「モロッコ」「望郷」「カサブランカ」。カラオケの愛唱歌「カスバの女」。どれもが放浪の人寅次郎をモロッコに呼び寄せる。

地の果、アルジェリア、チュニジア、モロッコの三国は、アラビア語で「マグレブ」と呼ばれる。太陽の没する国の事である。

何分遠い。室蘭から千歳、羽田、成田、エールフランスでシャルルドゴールへ約十二時間、オルリー空港へ一時間、カサブランカへ三時間、待ち時間と市内交通

時間をいれると約一日かゝる。アルジェが舞台の「望郷」に就いて、映画評論の上野誠一郎さんに教えていただいた。

「望郷」（ペペ・ル・モコ）

主演 ジャン・ギャバン、ミレーユ・バラン。

日本上映 昭和十四年、同年キネマ旬報ベストテン第一位

デイヴィヴィエ作品の傑作。アルジェリアのカスバに身を隠す犯罪者が、カスバを訪れたパリ女に郷愁を駆り立てられ、隠れ家を出て自滅する。ラストでペペが波止場の鉄柵にすがりつき、ギャビーの名を絶叫するが汽笛の音にかき消され、彼女の耳には届かず、絶望したペペが自殺するシーンは後々まで語りつがれる名場面であった……。

モロッコは、ベルベル人（ベドウィン）、フェニキヤ人、エチオピア人などが住み、イスラム化したのは七世紀からで、多くの王朝が興亡し、一時フランスの保護領となるが、一九四四年から再び独立イスラム王国となっている。

マラケシュ

最初の見学地マラケシュは赤い町、町



ジャマ・エル・フナ遠望

全体赤褐色の市街地である。こゝでの見物はジャマ・エル・フナ広場。もともとは重罪人を処刑した場所だと言うが、現在ではお祭り広場。

広いスーク（市場）、屋台、踊っている集団、説教をしている人、竿を使っているコーラのピン釣り、中が多いのがコブラの蛇使い。そばで見ているだけで五デールハム（約五十円）、写真は一枚につき十デールハムとられる。蛇の嫌いな寅は遠くからのぞいていたが、近寄ると子供が

後から蛇を首にまきつける。

俺もガマの油売りをやりたかったな、珍しくて大うけ、飲み代くらい出たかなあ。

夜はテント劇場に「ファンタジア」を見に出かける。ドラクロアの同名の絵で有名だが、そもそもはアラブの騎馬武術。食事をしている間に、ダンサーがやって来てオリエンタルダンスにさそう。日本人こゝにありで出て踊ったが何処も同じチップがお目当。

同行者に、サウジアラビアに二年近く出張していた人がいて、格好よくベリー・ダンスを踊って、ドイツ人、アメリカ人などからヤンヤの拍手で、面目をほどこしていた。

ワルザザードへ

我々のモロッコのイメージは、砂漠、カスバ、オアシスなどだが、大西洋側の平地は一望千里の麦畑、しかも二毛作が出来るという。

三つのアトラス山脈の最高峰は万年雪をいたゞく四千メートル。海拔が上がってゆくに従って、ラベンダー、ポプラ、じゃが芋の花など、思わず北海道を思い出す風景のなかで、小さな段々畑が高い



お花畑とアトラス山脈

所まで作られている。

荒地にベルベル人のテント、中、高地でローマの遺跡、フランス風の市街、スペインのコロニアル風の風物、イスラムのモスクと風俗など、非常に変化に富んで見あきない。

テイシユカ峠は平地から一挙に二千二百メートル上った高地。ガードレールもなく、下を見ていると精神衛生上よろしくない。

峠を下ってカスバ街道を、アイトベン



トドラ溪谷

ハドウのカスバ（カスバは大家族の集合住宅、カスバの集合体はクサル、城塞ほどの意味か。このカスバは「アラビアのロレンス」の撮影場所でもある）へ。
 ユネスコが基金を出して住居を復元中なのだが、現地ガイド氏曰く、「増水によって橋が落ちて行けなかったが、架橋が終わって渡れる様になった」との事。どんな橋かと思ったら、巾一メートルもない木の板を石でおさえてあった。やれやれ。
 エルフードへ
 途中トドラ溪谷で昼食。高さ三百メートルの絶壁峡谷。層雲峡とは比較にならない雄大さで、台湾のタロコ溪谷と双壁、

川には橋がなくバスは川を横切って対岸につく。「アラビアのロレンス」で、ヨルダン人の伏兵が襲撃するシーンを撮影した場所だ。
 「アラビアのロレンス」
 主演 ピーター・オートウール
 日本上映 昭和三十八年、同年のキネマ旬報ベストテン第一位。
 第一次大戦中トルコの支配からアラブを守った、考古学者で戦術家のロレンスの半生を画いた大作。アカデミー賞七部門を受賞した。黒澤明監督絶賛の作品。
 エルフードは、サハラの日の出を見に行く根拠地。（なんで太陽の没する国で、日の出を見に行くの？）朝三時起床、ランドクルーザーに分乗して砂漠の道なき道を数時間、前進基地から徒歩。ガイド氏の「すぐそこ」にだまされて、歩けど歩けど「すぐそこ」はこない。スニーカーをはいているのに砂にめり込んで歩けない。砂丘の途中で遂に寅さん脱落。「モロッコ」で、デイトリツヒが靴をぬぎ捨てた気持ちになるなあ。帰り路の途中ラクダが迎えに来る。おそいよ、行く時に来れば乗ってやったのに。



サハラ 向こうの山に登る

「モロッコ」
 主演 ゲーリー・キューパー、マレーネ・デイトリツヒ。
 日本上映 昭和六年 同年のキネマ旬報ベストテン第一位。
 外人部隊駐屯地の歌姫と兵士のつかの間の恋。嫉妬深い副官によって、キューパーはサハラの前線に送られるこの時キューパーが鏡台に「グッド・ラック」と書き残すところや、デイトリツヒがハイヒールを脱ぎすて、あとを追うシ



フェズのメディナ

ーンは有名。また日本で最初のスーパーインポーズ（日本語字幕）映画としても有名である。
だがやはり砂漠の日の出は圧巻。生きていてよかった。何、表現方法が一寸ちがうって。

帰途、アンモナイト（道路にも露出している）、砂漠のバラ（ローズ・ド・サハラ。砂の石英質が結晶したもので、バラの花状となる）、三葉虫の化石などの売店がある。

フェズ

フェズはイスラム千二百年の古都。

フェズ・エル、バリのメディナ（旧市街）は迷路そのもの。案内人がついていても迷う人が多く、迷ったらその場所を動かない様にと注意される。細い道にはロバも歩いてくるが、一部にはロバ進入禁止の標識が出ている。

皮の染色屋が集まるラダー地区で、ミントの葉を手渡されたが、これはあまりの臭気に鼻の孔にさしこんで観光する為のもの。キャラバンサライでは一泊三百円くらいから。ちなみに、欧米型のホテルのほかはアラブ式トイレ。地面を掘って板を渡しただけのオープントイレで、水をおいてあるが御使用法は御想像のとおりです。

フェズは、フェズブルーの陶器でも有名だが、有田ーオランダのデルフトーフェズと伝えられたもので、値段も安く、ゴダール皿を一枚購入した。

夜のベリーダンスは遠慮して、ホテルで一人で食事したが、料理、ワインとも中々。

ボルピリス、ラバト

ボルピリスはローマの旧都。カラカラ

帝の凱旋門、黄泉の国に妻エウデリケを探しに行ったオルフェの館、ビーナスのモザイク画などがあるが、このビーナス、シンプルではあるが、フィレンツェの「ビーナスの誕生」と基本的モチーフが同じで面白かった。

ラバトは、第二次大戦後フランス保護領から独立した現王朝の主都で、モハメッド五世廟と、現国王のハッサンの塔が写真撮影のポイント。モロッコでたゞ一軒の日本料理店「富士」は、値段、味ともまあまあ。

王宮はラバトの外、フェズ、カサブランカ、マラケシュなど至る所にあり贅沢を極めている。バス旅行中、パトカーのサイレンで車が横により、スピード違反でもおこしたのかと思ったが、何と国王一族の馬鹿息子（失礼）のお通りだとか。一同憤慨しきり。

貧困にあえぐ民衆は教育にも困り、学齢期の児童に観光客が品物やお金を与えるため、児童が登校しなくなるので、あまり金品を与えないでほしいと要望があった。

カサブランカ

カサブランカとは、スペイン語で白い



バー・カサブランカにて

家、コロニアル風の白壁の家が多い。アラブ世界最大のハッサン二世モスクがあるが、何故権力者は馬鹿でかい建物に固執するのだろうか。イスタンブールのブルームスタヤ、ソフィア宮殿の方が真の印象に残っているなあ。

「カサブランカ」

日本上映 昭和二十一年、同年第八位。

主演 ハンフリー・ボガード、イングリッド・バーグマン。

第二次大戦下、ドイツ軍占領下のカサブランカに、亡命の機会を狙う反ナチの大物と妻イルサ、カフェを経営する陰のボス、リックの店を旅券を手に入れる為に夫妻が訪れる。ところがリック

クとイルサは、パリでは恋人同志であり共にパリ脱出を誓いあった仲であったが……。ラストの衝撃的かつ感動的な別れが、今も語りぐさとなっている。

宿泊はハイアットトリージェンシー、立派なホテルで、ピアノバー「カサブランカ」がホテル内にあり、映画のバーを再現し、「外人部隊の白い服」のウエイターがサービスするカウンターで、気持ちよく「カルヴァドス」を傾けた。

余談になるが、ホテルの夕食に飲んだ白ワイン、「カベルネ・プレシダン」は、大変おいしかったが空港には置いてなく、高級ホテルでのみ使用しているとか。ちなみに地煙草もやはり空港にはなく、フェズの市内商店で買い入れた。

アザーン（お祈りの時刻の知らせ）の呼びかけの音が聞こえてきた。寅もメッカの方角に向かって「アッラー、アクバル（神は偉大なり）」とお祈りをしよう。

平成八年度

MMMCドライブ会

『天人峡温泉一泊の旅』

幹事 塩 澤 英 光

（東室蘭医院）

七月二十七日土曜日・二十八日の日曜日にかけて、室蘭港祭りが開催されていたにもかかわらず、北へ向かう集団がありました。MMMCドライブ会です。参加者は澤山クリニツクの方々、遠藤孝二郎先生ご一家、鴨井清貴先生と旭川から参加された先生のはとこの中学生の方、斎藤光史先生ご一家、そして私の一家で車数七台、大人二十名、小人四名、計二十四名の団隊です。

天気は曇りで時々雨が降るあいにくの天候でしたが、岩見沢で少々降られた以外は、まあまあ曇り空で、本隊が天人峡に到達したあと大降りとなり、きわどいところでした。

少し遅れて着いた鴨井先生は、雨に降られまわりも薄暗くなり大変だったそうです。遠藤先生ご一家は、目的地での合

流となりましたが早く到着されていて無事で、既に入浴されていました。

今回のドライブ会の準備は、四月から始まりました。いつものドライブ会は日帰りですが、今年は宿泊の予定だったため、部屋の予約が必要でした。種々の都合のためM M M C総会が開かれたのが五月に入ってからでした。山奥の旅館だから空いているだろうと考えたのですが、天人峡温泉の一番大きな天人閣というホテルが満室との事で、次に大きなグランドホテルになりました。七室予約したのですが意外と盛況らしく、澤山先生からのもう一室増やしてほしいという要望には、二カ月前にも拘らず、お答え出来ない程でした。

下見は六月十六日に行いました。道路標識等をメモしながらのドライブで大変だったのに加えて、帰り道で旭川から高速道路に入ろうとした時、入口のゲートが閉まっており旭川と深川間が土砂崩れのため不通との事、ラッシュアワー並みの渋滞の国道二二号線をノロノロと深川・留萌インターまで下がり、やっと高速道路に上がり、家に着いたのは夕方八時で、自分の子供に『腐ったスイカミ

たいに寝てる』と言われても、腹を立てる元氣もありません。ドライブ会の当日高速道路が不通にならないようにと願うばかりでした。

さて、当日は曇り空でしたが、雨も余り降らず先々の天候で、午後一時十五分に鶯別小・中学校の校庭よりスタート、交通量が多い事もあり、あらかじめ集合地点を決めての出発です。

高速道路の休憩所(サービエリア)も混雑しており、中々並んで止まる事が出来ませんでした。皆さん時間に遅れる事もなく、しっかりと走って下さったので大変助かりました。

第一回目の集合地点、樽前サービエリアで十分休憩。駐車場の地面には北海道の山の動物(クマ・キツネ・リス・フクロウ等)が画いてありました。反対側の海側のサービエリアには、海の動物(カレイ・タコ・タラ・フグ・サケ等)が画いてあります。小便タイムの後次の休憩所である輪厚サービエリアへ出発、途中の苫小牧東の看板の下に新千歳空港の看板が継ぎ足してあり、次の千歳の出口の看板には千歳空港の昔の看板も残っており、時代の流れを感じさせられました。

た。

周辺の木を見まわすと、少し背丈が低いように思われます。だんだん北国へ近づいているせいでしょうか(自分の所の室蘭は棚に上げて考える癖が付いていて、北海道の中央の山脈より東は北海道じゃないとか偏見もあるようです。今年の一二月二セコへ行きましたが、氷点下八〜十六度で北海道の冬の厳しさをピリピリと感じました。風と雪に吹かれてスキーのリフトに乗っていると鼻と耳がちぎれるように痛くなり、サケのフリーズドライブである『とば』になるような気持ちになったものです。やはり室蘭は天気は悪くても良いなあと考え直した次第です)。

Boy's Be.:の北広島町の看板(室蘭から九十六km)を過ぎ輪厚サービエリアへ、六月十六日の下見の時には駐車場の拡張工事をしていましたが、今日来て見るとお客様感謝デイ開催中の垂れ幕が下がり、お祭りの様にお店が立ち並び、特産品のメロンの切り売りをする店等が出て大変賑やかでした。建物の中には自動販売機が並び飲み物・カップヌードル(カップソバ・カップうどん他)・ハイウェイカードの販売機はもとより、弁当(幕の内

みたいなもの)やオニギリ・ホットスナックと書かれた販売機にはタコヤキ・ヤキソバ・オコノミヤキが売っており、その隣に電子レンジが置いてありました。おそらく冷凍してあるものが出て来て、電子レンジでチンする(解凍加熱する)のだろうと想像しております。便所は広く、小便所が二十カ所・大便所が七つ(男子便所の話)有りゆったりしていました。輪厚を出て、北緯四十三度サツポロ・ミイルウオーキイ・マルセイユ(ミュンヘンではない)の看板を過ぎて料金所へ、今回はハイウェイカード一万円券を各車に出しましたのでスムーズに通過出来たものと思われれます。小樽方向と旭川方向への分岐点を過ぎて、私が勝手にトンボ街道と呼んでいる(秋にはトンボが多くフロントガラスが汚くなる)旭川への道央道へ、なぜか開拓記念塔のマークの江別西の看板(たしか開拓記念塔は野幌にあったのでは?)。監視カメラ(室蘭から約百三十六km)や夕張川を過ぎ、ドサンコ馬がソリを引いている岩見沢市の看板を過ぎ、右手に三井グリーンランドの大観覧車、道路標識には『私に注意』のキツネのマークがありました。もう少し

先には、キツネとタヌキの標識があり最初のキツネとタヌキの色は紺色で、二つ目、三つ目の同じ形式の標識は赤色、タヌキは緑色で毒々しい黄色がバックカラーです。その時妻が『マルちゃん(カップヌードルの会社名)の、赤いキツネに緑のタヌキ』といったので、不思議に納得してしまいました。実際は目立つ様にとけばけばしい色を使ったのだと思いますが、色の決定に関してカップヌードルが関与しなかったとは誰も言えないだろうと思ひ、思わず笑ってしまいました。次の三笠市のマークは海竜、美唄市はエトピリカ(?)の鳥のマーク、芝桜でアーチの縁取りをされた美唄トンネル、奈井江町はメロンのマーク、左手には平地の真ん中に火力発電所、ふと横を流れ過ぎる山の木を見ると、背の高い木もあれば、低い木もあります。さて、木の高さは何で決まるのだろうかと考えてみました。谷の木は高く(低木は別)、山の上や道路の両側の土手の上の木は比較的低い様です。すると木の高さは、前出の北国ドウノコウノの話ではなく、風の強さにも関係する様にも思われてきます。もちろん雪の多い所や高山では低いだらう

と思われれますが。

そうこうしているうちに、『この先、音の出る舗装』という標識が現れました。これは道路に凹凸をつけて音が出るようにし、ドライバターの目を覚ませようというものらしく、三拍子、三拍子で、残念ながら七拍子はありませんでした。

次の休憩点のハイウェイオアシス砂川(室蘭から約百九十km)でも出店が出ていました。ステージも設けられ、タバコの宣伝のお姉さんや、出店の呼び込みの声はうるさいのですが、鳴き声の出る羊の電気は止められており、昆虫取りの兄妹の像はステージの奥、サケにまたがった少年像は看板の裏、いつもの静けさは何処えやら。滝川・芦別インターを越えて、深川市のマークは屯田兵と稲穂と林檎。

しばらく行くと、道路をまたぐアーチに大きな文字で、『対面通行^⑦』とあります。今では、伊達方向に同じような標識がありますが、私は通った事が無く、始めは何事かと思った次第です。中央分離帯が所々無くなつて、プラスチックの棒のようなものだけになる一車線の時速七十km走る定速道路になりますよという

ものでした。六月十六日の土砂崩れはこの一車線の道路の何処かだと思われませんが、よく判りませんでした。

石狩川の標識は石狩鍋を吊り下げ持ったクマのマーク、次第にトンネルの数が増し、それぞれ形や模様が工夫されています。名前は忘れましたが、柱状節理や雪の結晶、木々の断面を多く積み重ねた様なアーチ（遠くから見るとジャガイモか丸い大きなタイルかと思いましたが、近づいて見ると木の切り株の断面の模様が付けてありました）、他にはツルやエゾカンゾウの模様のトンネルもあり大変楽しかったです。長いトンネルを二つぐぐって旭川鷹栖（終点スピードダウン）で高速道路ともお別れです。

インターを出て、北見・士別方向へ、春光台トンネル・春光台アンダーパスを抜け、旭川環状線を流通団地方向へ右折、行けども行けども旭川。ツインハープ橋まで行ってしまおうと行き過ぎと、心を引き締め、道道二二二号線へと曲がるための目印である旭川信金と日立電気ハウスの看板を探しながら、そろそろと進んで行くと、旭川信金は一つでは無く、あるはあるはで三つくらい過ぎてから、やっ

とお目当ての旭川信金を見つけ左折、適当な所で一時集結全車を確認し、ほっと胸を撫で下ろしました。

この二二二号線は、別名、旭川大雪山層雲峡線と言いますが、層雲峡には通り抜けは出来ず旭岳温泉と天人峡温泉へと繋がっています。二二二号線に曲がった時点から、周囲が徐々に暗くなって来ました。はるか前方の山々が徐々に大きくなって来ます。時々パラパラと小雨、室蘭から二百九十km離れた天人峡に着いたのは午後五時四十分頃で、ホテルに入っ

て暫くしてから、辺りは更に暗くなりザアアと大粒の雨が降り始めました。天人峡の高い木々と柱状節理に、線となった豪華な雨。不思議と心が落ち着く場所でした。

宴会は、鴨井先生達も揃った七時から行われました。初めに私から、ドライブ会参加のお礼とドライブの労をねぎらう挨拶、続いて斎藤光史会長からモータリクラブの歩みと今後の努力目標、澤山先生からのねぎらいのお言葉を頂戴し、遠藤孝二郎先生の乾杯の音頭でスタート、記念撮影と進み和気藹々の内に幕となりました。

肩の荷が降りた気持ちで二度目に入る温泉は格別でした。地方の温泉では良くある事ですが、冷房は無く、外燈には蛾や黄金虫、蚊トンボ等が群れ飛び、サンルームのガラス窓を外して露天風呂とした所には蛾が泳いでいたりして、自然にどっぷり浸っている気分は満点、この時点では雨は小降りになっており、緑色や青色、黄色で幻想的にライトアップされた柱状節理と小雨が何とも言えず良い雰囲気でした。



一同揃って1+1は

ここで以前、ドライブ会参加申し込みの第一回目の紙に七月二十七日・二十八日は天人峡温泉の滝祭りが開催されていますと書かれてあった事をご記憶されている方も多々あると存じますが、昨年行われて出店だの滝のライトアップだの行われたそうです。ところが今年から環境庁の自然破壊に繋がるのご達示で中止となったそうです。悪しからず。

静かな夜が明けた日曜日の朝、七時半から和食のバイキング、小さなホテルの喫茶店は大賑い、地元の牛乳が一番新鮮でした。

朝食が終わってから、小雨がぱらつく中滝を見に出掛けました。途中から夕立の様な激しい雨が降り出しました。羽衣の滝へ行く道の途中、澤山先生や遠藤先生とすれ違い、道の様子をお聞きし、帰路の安全を願いました。羽衣の滝へ向かって行くと、まず砂防ダムから水量の増した川が流れ落ち、幅広い滝の様になっていました。羽衣の滝の見物場所は二カ所あり、下から望めるあずま屋付近と滝壺の見える見晴台がありました。どちらも雨で水量が増しダイナミックな四段の滝が見事でした。敷島の滝へのコ

ースは道が悪くて通れないとの事でロープで封鎖されていて行けませんでした。

帰り道は自由解散となり、各々好きな道とスピードでお帰りになりました。私は子供達と札幌の月寒グリーンドームへ寄り、当日開催されていた夏休み学習博『地球大冒険・46億年の旅』を見てきました。内容はNHKの46億年生命の旅と本州で行われた恐竜博と任天堂64フェア、野外ステージ、出店がゴチャマゼになった内容でしたが、子供達は喜んでいました。日中は気温が上がり早々に家路につきました。

層雲峡に比べて天人峡は規模が小さいものの滝は太く雄大で、旭岳やトムラウシ・化雲岳・ひょうたん沼・ヒサゴ沼等への登山口の役割を持っていきます。十七km程車で走ると、旭岳温泉にも行けます。冬は雪に閉ざされる為、利用できる期間は五月ゴールデンウィークから十月中旬頃までとの事でした。室蘭に登別やカルルスが有る様に、旭川市では登別の代わりに層雲峡、カルルス温泉の代わり



羽衣の滝

に天人峡が有ると申し上げればご理解頂けると思っています。北海道の自然も年々少なくなつて来ています。機会がありましたら是非とも一度はお越し下さると良いと思います。

MMMCの会員の方は、来年是非ドライブ会にご参加下さるようお願い申し上げます。

南国の楽園と

日本守備隊玉砕の島

サイパンへ

鴨 井 清 一

(鴨井病院)

平成七年十一月二十三日、我々は千歳空港出発四時間後、夕方陽光あふれる南国の楽園サイパンに到着する。其後ホテルで、ワインの乾杯と共に晩餐会が行われた。

サイパンとは、日本から南へ約二千四百kmアメリカの自治領、北マリアナ連邦の中心地南北約二十km、東西十km伊豆大島の二倍程の、南国の素朴で、のどかな世界屈指の透明度を誇る美しい海と、自然の造り出す断崖や海岸、其の昔、第一次大戦後三十年間日本の委任統治領であったが、第二次大戦時、日本軍民間人の玉砕の悲しい戦跡が残って居り、親日家も多く、日本人にとっては身近なリゾートアイランドとなっている。

翌日、ゴルフ組と観光組に別れ、私は医師会事務局の高橋則夫さんと共に島内



サイパン砂糖王公園

観光へと向かう、各ホテルを廻り、乗客約五十人のバスは、青く輝く海、南国情緒あふれる街並みを見ながら、島内を走り砂糖王公園に寄る。ここは日本統治時代にサイパン砂糖王公園と呼ばれて、日本人に親しまれた所。園内に松江春次翁像が建てられ、彼は其の昔室蘭の栗林徳一翁の主宰する南洋興発株式会社と共に此の地に砂糖キビ畑を栽培し、精糖工場を造り砂糖王として人望の高かった人物で、ここには砂糖キビ運送用に使われた



バンザイクリフ

赤い蒸気機関車が飾られている。尚、境内には立派なサイパン神社が建てられて居り、其の傍の旧神社の石碑は、戦火砲弾の跡も生々しく倒れんばかりに傾いていた。

又、近くのガラバン町は日本時代、島内一の繁華街であった所で、其の昔こだけで約三万人の日本人が住んでいた所で、当時を物語る日本サイパン病院跡や刑務所跡が廢墟と化して残って居る。

次に島の最北端にある岬、「バンザイ



ラスト・コマンド・ポスト

クリフ」に行く。この眺望は島随一の景観と云われる処で、大戦末期アメリカ軍に追いつめられた日本民間人等、約一万人が祖国を思い「バンザイ」を唱えながら、約八十mの断崖から投身自決した場所、今は縁に犠牲者の冥福を祈って、「太平洋之塔」その他数多の慰霊碑が建てられて居り、聞くと涙、語るも涙、無情の物語りであり、沖縄戦ではこれと同じ様な事象を知らされて居たが、サイパンでの事件は何も知らされて居なかった

様である。

次に、近くのラスト・コマンド・ポストは山の崖下の洞窟を利用して造られた日本軍最後の司令部跡で、目の前の広場には日本軍の大砲や戦車の残骸が並べられ、砲弾により壊れた洞窟も見られ、当時の戦闘の凄惨さを物語って居り、此処でも米兵に追われた萬余の日本兵が後方の断崖から海中へと自決したと伝えられ、冷酷無惨な話である。

又、北西海岸のバード・アイランドは入江に浮かぶ小さな島で、其の名の如く南国の鳥達の生息地として知られ、夕暮れになると巢に帰る鳥達の声が周囲にこだまし、月を眺めるポイントとして有名で、月見島とも呼ばれ、白い砂浜、緑の海、風光明媚で、島内屈指の景勝地と云われている。

尚又、免税店ショッピングに就いてはDFSギャラリーサイパン、白牡丹等に立ち寄り、商品豊富、品数多く、大変賑やかで、多くの皆さんが買い物した様で、午後三時頃バスは帰途についた。

其の魅力一杯のサイパンの其の夜、トロピカルナイト、満喫のディナーショーをと全員ハイアットリージェンシーサイ



バード・アイランド

パンホテル会場へ出掛ける。激しい太鼓のリズムに合わせて、ファイヤードダンスを踊るダンサー。南国情緒あふれるポリネシアダンスを觀賞しながら、ビュッフェスタイルでディナーを楽しむのはサイパンの夜を飾るハイライトでもあった。

翌日の午前、コーラルオーシャンポイントカントリークラブで、ラリー・ネルソン設計の海を見下ろすシーサイドコースで、薄陽と小雨の天候の中、海越えのシヨートホールと本格派二段グリーンに

初めて挑戦して見て非常に愉快であった。午後は、水中展望船海底ツアーに参加し、船底の窓から珊瑚礁や熱帯魚の美しく幻想的な南国の海中が眺められ、又大戦中の沈没船の残骸も見られた。

最後の夜は、沈みゆく美しい夕陽に海の色が刻々と変化して行く頃、ディナークルーズに出掛けた。生バンド演奏を聴きながら、ドリנק片手に、ポリネシアンダンスを觀賞し、チャモロ料理を味わいながらのクルーズで、皆トロピカルナイトを十分満喫した様でした。

四日目の朝、歓びと悲しみを秘めた南国の島、サイパンを後に北帰行へと空港を飛び立ち帰国の途だったのである。

サイパン紀行

(親交会旅行)

村井 玄 乙

(室蘭赤十字血液センター)

今頃になって去年の旅行記を書けといわれても、記憶は薄れ、資料も散逸しており、ハタと困惑の体とはこの事だ。以前より本誌には達筆な諸先生の筆になる変わった土地の素晴らしい紀行文が寄せられ好評サクサクなだけに、安・近・短を旨とする親交会旅行記をものするには全く気が乗らないが、多少の不明、誤謬は御容赦願って、進めることとする。

平成七年十一月二十三日、そぼふる雨の中をバスは千歳空港へと向かう。「今日は雨でよかった、ゴルフできないもな」と妙な安堵感を表明するゴルフキチがいる。総勢二十一名、同伴の奥様方のでやささが車内をなごませる。三村先生がインターネットか何かで入手したらしい現地状況のチラシが配布される。やがて添乗ガイド氏がパンフレット片手に説明をはじめ、旅なれた面々は聞く耳持たず

ガヤ／＼。ガイド氏ひときわ声を張り上げて「：：以上であります、バスポートだけは絶対に紛失しないよう呉ぐれも御注意下さい」途端にH先生「パスポートなくしてもあわてなさんな、これこれ然々で帰って来れるから、帰って仕舞えばこっちのものナノーだ」とここには書けないマル秘の策を披露して一同感服、ガイド氏苦虫顔。

無事コンチネンタル航空の機内におさまる。高齢者は少々高くてでもビジネスクラスを選んだ方が快適との島山先生の助言があり之に従う。コーヒーを所望しても、エコノミーは紙コップだが、こっちはコペンハーゲンの立派なティカップで運ばれる。機内食もこちらは名前も判らぬ魚のフライ、こちらはステーキと差をつける。お土産袋も付いて中には日焼け止めクリーム、サングラスその他が入っている。何かの拍子でコーヒー茶碗を転倒させて下半身にかかりアッチッチ。すかさず金髪のスチュワーデスが、おしぼりで小生のズボンを拭きにかかる。股間の濡れた処も容赦なく中の「心棒」をむんずとつかみ、之をアイロン台の如くにしてゴシゴシと拭き上げる超サービスに

は恐れ入ったが、何かトラブルの時こそ
本場のサービス振りが判るといふもので
す。

やがてサイパンに近附くと、あつゴル
フコースが見える、パラセールをやって
るだの総立ちで窓にしがみつく様、恰も
修学旅行の小学生の如くかましい。国
内旅行並みのたった三時間半で我々は来
た。日本に一番近い南洋の島へ。手つか
ずの自然が多く残っているリゾートアイ
ランド、サイパン島へ。

空港に到着して機外に出るや否や、強
烈な太陽光と熱気に圧倒される。バスで
僅か五分で、コーラルオーシャンポイン
トリゾートクラブホテルに到着。実際は
ホテルのロビーから夫々キイを持って戸
外のコテージに向かう。途中にプールが
あり、ギャル達の水着姿を横目で眺めな
がら赤い屋根のコテージに落ち着く。

早速黒い肌のメイドがコニチワとやっ
て来て備品を確かめる様子。三村先生
「ルーム係のメイドとお話し合いました。
英語とチャモロ語のチャンポンで一
時間位お話ししましたが、可愛い未亡人
なんですよ」と上気して語れば御婦人連
が「怪しいー、奥さんに云いつける」

なんぞとやられ頭をかいていました。

当日はホテルのレストランでスペイン
料理のデイナーを楽しむ。「あれ、畠山
夫妻、足永夫妻がいないなあ」「いやも
うナイターのコースに出ています」に一
同あんぐり、「ゴルフをすれば疲れがと
れる」という畠山語録を実践中でありま
した。

此処はまさにゴルフ場一体型のホテル
で、フロントとクラブハウスが一緒にな
っており海を見下ろすラリーネルソン設
計のシーサイドコースで、コテージの窓
からゴルフコースが一望出来るので、二
階の窓から「ナイスショット」などと声
がかかるのであります。

翌朝六時にスタートということであ
は涼しいかと思つたが之がクソ暑。何し
る冷房の効いた部屋から戸外に出ると眼
鏡が真っ白にくもって見えなくなる。ラ
フにボールが入ったら皆目見つからない。
小生のような下手糞は一ダース用意した
ボールがなくなつて仕舞う。従つてスコ
アを数える気もなくなるし、この暑さで
は実力を発揮することは望むべくもない。
汗だくでジントラ〜とホールをこなし
て行く。途中に海越えのショートホール



コーラルオーシャンポイントリゾートクラブにて

があり、景色も抜群だが、海中に何発も
放り込みギブアップする方もあつた様だ。
暑くて上半身裸になつたら、コース廻り
の人がどこからともなく寄つて来て、
「ジエントルマンらしくしてクラサーイ」
などと注意される。例の東屋はないので、
バン型の軽自動車にジュースなどのせて
廻つて来る。M先生は各ホール毎に放尿
してマーキングしておられたが、ピールの
故か前立腺肥大かは不明。コースの中
には戦争時代の日本軍のトーチカらしき

ものあり、その上でテイショットさせるとは何事かと怒っていたK先生。先生のボールは急にドロ―して暫壕のような洞窟へ吸い込まれて行くのでありました。

平和そのものの様なこの島と、玉砕という悲惨な歴史のひとつまは、余りにもそぐわないが、その事こそ戦争の痛ましさと、平和の有難さを訴えているようでもあります。

くたく／＼になつて上がりましたが、クラブハウスではお互いに炎熱の中での悪戦苦闘を讃えながらの乾盃でした。

午後シーワールドアドベンチャーなる大げさな名称のオブションツアーがあり、熱帯魚が泳ぐ水面下の世界を水中展望船で探訪する海中散歩だという。まさしく人魚の気分が味わえるとの触れ込みに誘われて乗船。海底は真っ白な砂で、あんまり魚は見えないなあと思つてると突然十匹位がのぞき窓に集まつて来る。何の事はない上で撒き餌をやつていたのである。その時しか寄つて来ない怠慢な熱帯魚共め。白砂の上に沈没した上陸用舟艇が見えると解説のスピーカーに熱が入る。面白うてやがて悲しきシーワールドアドベンチャーでありました。

夜はハイアットリージェンシーホテルに移動しディナーショーに参加する。情熱的なポリネシアダンスを鑑賞しながら、ピュッフェスタイルのディナーを楽しむという趣向。クライマックスのファイヤードダンスでは火の粉がかぶりつきに飛んで来る。チャモロ少女のオツパイの上に味噌汁用のお椀をかぶせた扮装が印象的でした。チャモロ料理だが、みんなあのスープを知つて飲んでいるのかなか。あれはフルーツバットというコウモリのスープであるぞ。後は居酒屋風の惣菜料理。

さてホテルを出てチャモロ料理もいまいち物足りなくて何か美味いものでも喰いたいと思つていたら、期せずして同じ心境の美味求真の同志が集まつた。村井三村、森田、森川、神島の面々。三村先生「サイパン特産のヤシガニを喰べに行かないかい。あれを喰べずに死ぬ訳にはいかなですよ」M先生「そう言えばミシユランの世界十大珍味の中に入つていたなあ」(ホントかなあ)「行こう、行こう」と即座にヤシガニ会を結成、会長三村先生の案内で、サイパンのススキノ地区とも云うべきガラパン地区の屋台村の看板

などを見ながら、とある一角に車を止める。サイパンでは珍しい時代劇のセットを思わせる外観の「海賊」なる店に到着。のれんのかかった引き戸をあけ入店する。

メニュー表の他に「ヤシガニあります(時価)」のたれ紙あり。周りのお客はとみるとソバ喰つたり焼鳥を注文している。一匹四十\$とかなり高い代物の故か、注文は我々だけのよう。やがて緋を着た女性が生がしらずとヤシガニをのせたお盆を運んで来る。赤く茹でられたヤシガニだ。何やら巨大なヤドカリの如し。周囲の注目を浴びる中で食いつく。森田先生「花咲蟹みたいな味だが大味だな」とつれない感想。M1先生「ココナッツを食べてる故か、椰子の香りがするぞ」M2先生「海の蟹ではなくヤドカリの親玉なんだから、まさに珍味だ」とパク／＼。M3先生「タラバもヤドカリ科なんだよね」と学ある言葉。世界のヤシガニも次第にいなくなり今やサイパンの特産物とか、この珍味を肴に酒を飲み一同大満足。

このガラパン地区では実弾射撃場の看板があちこちにあつて結構繁盛しているようだ。何故か必ず隣にHなサービスをするらしき看板の店がある。優しい女性

のサービスでお茶を召し上がれなどと日本語で書いてある。M4先生「タマを打ってタマを抜かれるのか」と意味不明のつぶやき。

さて翌日のゴルフは省略するとして、我々のホテルは島の南端で街らしきものは全くない。リムジンバスが数回発着しているのはそのためかと思っていれば奥様連が、無料バスで街へ行けるので乗りませんかというので車内に入ると、元氣印の御婦人連が、少し俯き加減の亭主と一緒にある。聞けばこれから免税店へショッピングに行くと言ふ。そういえば、免税店と教会だけは、この島に不似合いなデラックス仕様である。ルイヴィトンのバッグ、フェラガモの靴、シャネルの化粧品がお目当てか。定番商品なら日本でも安く入手出来ると思うが、その品物をどこでどのように買ったかというサイドストーリーに付加価値があるという人もいる。大袋二つをさげて店内を闊歩させていたS先生の奥様は満足げで「ストレス解消は之が一番」と小生にウインクされましたので、こちらでも思わずVサインを出したものです。

同じ日の午後からMトリオの三先生と

K先生は、広大な敷地をもつ南洋植物の宝庫といわれる島の熱帯植物園に行った由、植物に囲まれながらハンモックで数時間の昼寝を楽しんで来たとの事で、涼しい風がどこからともなく吹いて極楽だったと賞賛し、ここを訪ねたのは正解だったと皆に吹聴することしきり。口の悪いM先生「熱帯植物の発するヘロインもどきのアルカロイドに冒されたんでないか。あの顔はまさしくオウムの解脱者にそっくりだ」

夜はサンセットダイナークルーズと洒落てみる。サンセットクルーズは、軽快な演奏とダンスでサイパンでも人気のツアーだというが、これにもAクラスからDクラスまである様なのである。我々の乗ったのは御世辞にも豪華クルーザーとは思われぬし、ダイナーというも憚られるような粗食。それでも音楽に合わせてデイスコダンスを楽しんでいて、いつサンセットになったのか判りませんでした。

さてさて、この三日間どこへも行かず昼も夜もゴルフ三昧に徹していたのは畠山夫妻、素敵なコースで6ラウンド楽しみましたと淡々と語るのであります。

千歳空港からの帰路のバスの中で、今回の旅行の感想を各自に述べて貰いましたが、紙面の都合でN夫人の発言を原文のまま紹介する。「主人と一緒に南洋の島でゴルフ出来たなんて……。主人に感謝しており、幸福感に浸っております」(亭主への点数稼ぎ?)

以上で親交会旅行記を終わりにします。旅行の目的を何にしぼるかは、その人のポリシーによるだろうが今回は考えさせられました。而し御同伴の諸先生は又とない女房孝行が出来たことで以て瞑すべきか。

次回からはその年の号にのせる様にしては如何か。今回はレポーターの人選の誤りで斯くも雑駁な報告になったのである。文句アツか。

全道ドクターズ参戦記

三村 博 通

(三村病院)

第三十回全道ドクターズが平成八年六月三十日に札幌国際ゴルフカントリー（島松コース）にて開催されました。

室蘭地区は斎藤医師会長をはじめ、児玉、遠藤、菊入、木下、神島、安藤、森川、畠山、足永諸先生及び小生の総員十一名がエントリーいたしました。当日は午前四時に遠藤先生運転の素敵なワゴン車に安藤、森川両先生と小生の三人が同乗させていただき、元気に(?) 出発した次第です。(?)とは小生に限り前夜の深酒と寝不足が重なり、その上折悪しくも当日は冷たい雨が無情にも振り最悪のコンディションで「参加を見合わせたほうがいいかもしれない」と躊躇しながらの出発でした。

前夜祭に出席された児玉先生のお話では多数の先生が出席され夜の更けるのも忘れ、とても楽しい前夜祭だったそうです。又、当日が児玉先生の誕生日だった

ので前夜祭が誕生会に変わり、お酒の量も益々増えて皆様も小生と同じだったようです。

ゴルフ場に到着してからは、激しく降る雨にパターの練習をすることも出来ず、低温の空気が肌を震わせ前記のような体調の小生など「出たくない!」という思いで一杯でした。折角ゴルフ場に来たのに、天候に負けて脱落するのも惨めだし、また出場した皆さんがホールアウトしてくるまでの時間をクラブハウス内で待っているのも無意味だしと考え決死の覚悟で出場したのは、私のみならず皆々様も同様だったと想像します。

さて、小生のプレーといえば、いつもながら不安定なショットを繰り返し、特にスタートの第一打は右の林に向かって飛び出し、パフォーを第四打のあとスリーパットし、トリブルボギー七で上がる始末。思い通りのプレーが出来ないのはいつものこと、OB一つスリーパットを重ねながら前半は四十七、後半は幸運続きの四十とまとめてトータル八十七、ネット七十四で上がることが出来た。

とにかく冷たい雨が降りしきる中でプレーは参加された全員の先生がプレー

の内容はともかく一分でも早く進みホールアウトすれば良いという思いだったはず。

表彰式の中で先輩ドクターの御挨拶がありとても有意義なお話でした。この先生は今回の三十回大会まで一度も欠席されず出場なさったそうです。全道ドクターズはゴルフを通して懇親を深め、健康に注意し長く参加を続けていくことでさらなる親睦が深まるとの事でした。本当にその通りだと思えます。先輩の教訓を胸にとどめ、来年も全員元気で次の開催地苫小牧での再会を期して、夫々の諸先生方が家路につきました。

最後に特記すべき事は、他の地域の多くの先生が朝から激しく降る雨に抗しきれず、次々と脱落されたにも拘らず当室蘭勢は一人の脱落者もなく全員が力のあらん限りを出しきり奮闘し、悔い(?)を残さずプレーしたことである。

編集室へのお便り

なお、今後とも発行の折は御惠送くださいますようお願い申し上げます。

砂川市西四条北二丁目一番一号

砂川市立病院

院長 南須原 浩一

(七・十二・七)

この度は「波久鳥」第十六号をお送り下さいまして誠に有り難うございました。当院での研究資料として大いに活用させていただきます。厚くお礼申し上げます。貴院のますますのご発展を心より祈念致します。

登別市登別東町三一九

北海道大学医学部附属病院

登別分院

(七・十二・七)

拝啓 時下益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびは、下記刊行物を御寄贈下さいますとありがとうございます。厚く御礼申し上げます。

貴重な研究資料として永く保存し利用させていただきます。

「波久鳥」第十六号、御惠送いただき有難う御座居ました。

拝読しながら創刊当時に参画させていただいたことなど、懐かしく想い出しております。当時、お元気だった先生方も大分彼の世へ赴かれて了い、これまた感無量のものがあります。

昭和四十八年九月から昭和五十八年一月迄の市立病院、昭和五十八年二月から昭和六十一年九月の国立登別病院の勤務中医師会と親交会の仲間に入れさせていただきます。私所属した産婦人科医会「三木会」の重鎮であられた長田・東・竹内・吉井の各先生方：皆さん相次いで亡くなられて了いました。

少し、想い出を綴らせていただきます。

三木会の流れで中央町小公園近くの店に、東・竹内・吉井の三先生とご一緒に参りましたが、何かの拍子に「室蘭さのさ」を作ったら：などといった話になりました。函館には「函館さのさ」があるので、その節回しを借用すれば：とか、前唄・後唄が難しいなど、四人で喧々諤々！酔ったまぎれに勝手なことを喋り合った末に生まれたのが、所謂「室蘭さのさ」。後に常盤のお姐さんが振付けを担当して呉れましたが、歌詞の方は、草稿を大分竹内先生が手直しされ、印刷に回されました。当時の東・竹内・吉井先生は幽明境を異にされて、残ったのは私一人ということになりました。

「波久鳥」はこれからもずっと続いて行くことでしょうし、また然う願って居ります。それならば、「室蘭さのさ」を「波久鳥」に載せていただけたならば、医師会・親交会に御功績のあった三先生も屹度ご満足かと駄文を弄した次第です。八番迄ありますが、竹内先生が印刷された抜粋篇を記します。

「室蘭さのさ」

一、室蘭の入江に立ちて

待人が：

「内浦の懐深き大黒の

島の灯台を

船は目指すか」

(繰り返し)

情熱秘めたる ネエー

情熱を

現在も港の道標

二、白鳥の岬遙かに

詩人が：

「絵鞆なる電信浜に

佇すめば

風逆巻きて

渦潮流るる」

漂泊詩人の ネエー

感慨を

現に残すや語草

三、測量の山より望む

対岸に：

「有珠山の赤き昭和の

岩肌を

神秘を湛ゆ洞爺の

湖かな」

天地神のネエー神歌が

永久に伝わる史の跡

四、室蘭の山坂道に

思うのは

「ボウーボウーと遙かに響く

船の霧笛

沈黙破りて息吹き

あるかな」

(繰り返し)

胸底に秘めたる ネエー

情熱を

将来に

伝えん

心意気

勝手なことを書き綴りましたが、亡き三先生を偲んで、「波久鳥」をいただきましたました御禮状とさせていただきます。

「波久鳥」編集委員諸先生

札幌市中央区宮の森一条

十五丁目一番十五号

小國 親久

(七・十二・十六)

今年も又「波久鳥」お送りいただき有り難うございました。

室蘭を離れて二十数年になりますが、加藤治良先生はじめ皆様方の益々の御活躍ぶりに接し大変なつかしく讀ませていただきました。お礼申し上げます。

静岡市大谷三八〇—九二

一方井 卓四郎

(七・十二・十一)

拝啓

今年もあとわずかとなってまいりましたが、皆様には益々御清栄のこととお慶び申し上げます。

このたびは「波久鳥」をお送りいただきまして誠にありがとうございます。

小生が室蘭保健所に勤めておりました時に、いろいろとお世話になりましたなつかしい先生方の御投稿を興味深く読ませていただきました。

室蘭市医師親交会の益々の御発展と先生方の御健勝をお祈り申し上げます。

敬具

札幌市厚別区厚別西二条五丁目二一十

勝俣 哲男

(七・十二・二十三)

毎号欠かさず送っていただいている

「波久鳥」、楽しく読ませていただいているながら、礼状も差し上げず、失礼しておりました。札幌に居を移したとはいえ、診察やオーケストラ指導で室蘭への往復も日常的で、「ヨソモノ」という気が全然しないから、というのが私の言い訳です。旧臘第十六号を受取って、加藤先生の筆になる書評(拙著「院長室の窓」)を発見し、俄かにこれまでのご無礼をやりわりと咎められたような気もして、今度こそは早速にも礼状を、と考えたのは、

これは言い訳ではなく事実です。ところがその矢先、自分でも思いもかけなかった事態出来、生まれて初めて患者として病院に囚われの身となっております。幸い名医に恵まれて、手術の経過も、化学療法の経過も極めて順調、あと数週間退院の見通しとなっているところで、始めから現代医療と名医の腕とを信頼していたので、万が一にも致命的などとは一向に考えもせず、あまり多方面にご心配は掛けまいと、仕事の上での必要最小限の方以外には連絡もせず失礼しておりました。それにも拘らずわざわざお見舞い下さった先生方も多く、恐縮して

ます。

生まれて初めて「温泉で寝正月」というまたとない休暇を与えられ、医療について、生と死について、生き甲斐について、老いについて、などなど考える時間をたっぷり持ちました。いずれ堅固しくない文章にまとめることができたら、「波久鳥」誌の片隅に誌面を与えて頂ければ幸甚ですが、今日のところは取り敢えず、遅れ馳せながら第十六号拝受のお礼と、加藤先生の心温まる書評のお礼を申し上げます。筆を執りました。

札幌市中央区南十三条西二十三丁目

安斎 哲郎

(八・三・四)

会 員 異 動

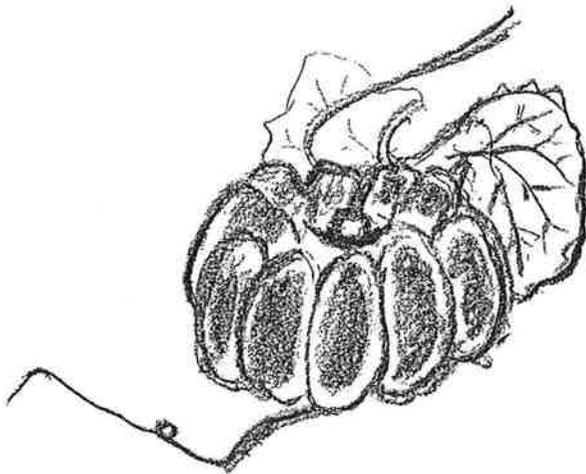
平成7年10月～平成8年9月

年・月	事 由	氏 名	医療機関名
8・3	退 会	狩 野 正 直	狩野医院
8・7	入 会	北 川 正 樹	わかくさ眼科クリニック
8・9	逝 去	中 村 秀	元中村小児科内科医院

平成8年9月末現在会員105名

親交会のおもな行事

- 受賞祝賀会及び忘年パーティー
平成七年十二月八日
於 室蘭プリンスホテル
- 平成八年度定期総会・懇親会
平成八年五月二十三日
於 ホテルサンルート室蘭
- 親睦旅行
平成八年七月六日・七日
於 カルルス温泉 鈴木旅館
- 秋の行楽会
平成八年九月十二日
於 レストラン・キグナス
(フェリーターミナルビル)



編集後記

早いもので『波久鳥』も、今回で第十七号の発行となりました。小生は、第一号発行から編集に加わり、完成が間近となったいま改めて思う事は会員各位の『波久鳥』に寄せる優しい見守りが有ったればこそです。『波久鳥』は、小誌ですが医師会員が仕事を離れ、親睦を深めつつ精神の「和」を共有する目的で発行してきました。

本号の編集会議時に、千葉県医師会より『波久鳥』の掲載文についての照会が有り、本人の了解を得て千葉県医師会の会報に転載されたとの報告が有りました。『波久鳥』が遠く離れた千葉県医師会員にも愛読されたと知ると、日頃はチャランポランの小生でも、こそばゆい喜びを覚えた次第です。

今回は、黒光先生から東・本庄両先生、高島先生から中村先生の「想い出」を寄稿して頂きました。三先生とも豪快かつ思慮深い先生であり、読んでいるところから抜け出てくる様な気が致しました。又、座談会は「科学は人間を豊かにしたか」というテーマで、科学信奉者とア

ンチテーゼの織りなす討論であり、各ゲストの先生が夫々に何らかの議論を投げかけ、とても意義ある座談会だったと考えております。毎回掲載される座談会は、収録後文章に起こし、纏める作業を長年に渡り一手に引き受けて下さっている加藤治良編集委員の努力に、編集部一同より拍手を送りたいと思います。

この度の第十七号『波久鳥』は、会員の協力で短歌、俳句、紀行文や親交会のサイパン旅行記の模様等、沢山の投稿が寄せられました。前回に勝る心温まる『波久鳥』が出来上がり、投稿御協力に感謝致します。この第十七号『波久鳥』が会員皆さんのお手元に届く頃は、年の瀬も押し迫っている頃と思います。時の流れの速さに驚嘆して仕舞います。いつの間にか十七冊が重なっている様を想像する時、重なりあっている雑誌達が十七冊イコール我々の年輪であり、我々の財産であると確信します。

会員各位には、来年の第十八号への投稿を今からご用意頂き、我々編集部も、何か新しい企画を考案し、皆で楽しみながらこの『波久鳥』を育て、永く続けて行きたいと思えます。(三村博通記)

「波久鳥」十七号編集委員

加藤治良	事務局	高橋則夫
村井乙		小杉修一
澤山豊		
上田智夫		
大久保洋平		
三村博通		
斎藤甲斐之助		

親交会会誌 波久鳥

発行日 平成八年十二月十日

発行所 室蘭市医師親交会

印刷所 室蘭印刷株式会社